

## 目 次

教育理念・教育目標 .....	3
カリキュラムマップ .....	6
科目及び授業時間数 .....	7
実務経験のある教員による授業科目の一覧表 .....	8
教育課程実施に関する事項 .....	9
教育内容	
基礎分野 .....	11
専門基礎分野 .....	26
専門分野 .....	49
基礎看護学 .....	51
地域・在宅看護論 .....	64
成人看護学 .....	71
老年看護学 .....	79
小児看護学 .....	84
母性看護学 .....	89
精神看護学 .....	94
看護の統合と実践 .....	99
臨地実習 .....	104
指定規則外科目 .....	111

## 教育理念

本校は、礼・智・技を学校の是とし、探究心と洞察力を高め、地域に貢献できる「愛し愛される専門職業人の育成」をめざす。礼とは、社会の秩序を保つための生活規範を身につけることであり、智とは、物事を理解し、是非・善悪を弁別する心の作用である。技は科学的根拠をもとに看護実践を行い人間生活に役立てることである。これらを本校の教育の基本姿勢とする。「愛し愛される」とは、思いやりをもって互いを大切にすることをいう。

## 教育目的

学校教育法及び保健師助産師看護師法に基づいて、看護の基礎教育を行うとともに、専門職業人として豊かな人間性を養い、地域社会に貢献できる人材を育成する。

## 教育目標

1. 対象に対して思いやりをもって大切に関われる姿勢を養う。
2. 看護への探究心と洞察力を高め自ら学び、自己の課題を解決する能力を養う。
3. 対象を生活者としてとらえ、健康の維持増進と健康の回復、安寧な死を迎える看護を実践するための基礎的能力を養う。
4. 保健・医療・福祉制度のシステムを理解し活用できる能力を養う。
5. 看護実践における倫理行動がとれる姿勢を養う。
6. 自己の役割を認識し、他者と協同しながら自律した行動がとれる能力を養う。

## ディプロマポリシー

以下の姿勢や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に卒業を認定する。

1. 様々な状況にある人を思いやり、尊重しあい、相互作用の中で共に成長する力を身につけている。
2. 物事を様々な視点をもって探究し、看護の質向上を図る基礎的な能力を身につけている。
3. 健康の状態やその変化に応じた臨床判断を行う基礎的な能力を身につけている。
4. 看護実践における道徳的・倫理的な責務を自覚した判断と姿勢を身につけている。
5. 地域共生社会における看護師の役割と多職種との役割を理解し、多職種と連携・協働する基礎的な能力を身につけている。

## カリキュラムポリシー

ディプロマポリシーに基づき、以下のようにカリキュラムを編成する。

1. 「様々な状況にある人への理解を深める」  
コミュニケーション論、国際理解と言語、看護カウンセリング、人間関係論を、専門分野の実習を含めた各科目と関連付けながら段階的に履修できるよう設置する。
2. 「看護の質向上にむけた基礎的能力を培う」  
人体や病態、治療を理解する科目を各看護学と関連付けられるよう段階的に設置する。
3. 「臨床判断能力の基盤をつくる」  
日本語表現法、看護の思考と表現、臨床看護推論、臨床判断と看護の実践、病態生理学Ⅴの順に設置し、さらに看護と関連づけながら学べるよう専門分野の実習を含めた各科目を配置する。専門分野では、シミュレーション教育や事例を用いた授業を取り入れ、実習においては場面のリフレクションを行うことで、現象を分析、統合する思考を育成する。
4. 「各領域における学習を通して、道徳的・倫理的姿勢を身につける」  
専門分野の各領域に、道徳的・倫理的姿勢を身につけるための内容を横断的に配置する。
5. 「地域共生社会における看護の役割への学びを積み上げる」  
「地域の環境」「地域の生活」を早期に設置し、地域で生活する対象の健康水準に応じた看護展開へとつなげていく。
6. 「早期臨床体験実習により医療人としての意識を早期に固める」  
看護学生としての意識や学ぶモチベーションを高め、学びのイメージを広げていけるよう「老年看護学実習Ⅰ」を早期臨床体験実習科目として設置する。

## アドミッションポリシー

1. 看護への強い関心と、医療人としての覚悟と決意のある人
2. 主体的に学び、目標に向かって努力できる人
3. 豊かな感性と思いやりのある人

## 主要概念の定義

### 【人間】

- 人間は自らの生・老・病・死のありように積極的に関わっている。
- 人間は感情、理性、思考能力を持ち、自己の内面に起こる様々な矛盾、対立する側面に対して、自らの責任により意思決定し、自己実現へ向かう存在である。
- 人間は過去の経験を活かして未来を予測し、身体的・精神的・社会的・霊的に、より適応した環境を創り出す。さらに、環境との相互作用により、絶えず発展し変化していく。
- 人間は他人を知り、好意を抱き、愛し、他者との関係をもてる社会的存在である。
- 人間は成長の段階に応じた学習を可能とする教育システムをもち、文化を発展させ、社会のシステムを整備することができる。

### 【環境】

- 環境とは、人間それぞれが持つ内部環境とそれを取り巻く外部環境全てを意味する。
- 環境は人間を取り巻く全てであり、人間も環境の一部である。その人間自身は環境の要素として相互に影響しあっている。
- 環境は人間と相互作用しあって、人間の健康生活に影響を与える。
- 自然環境の変化（災害）は人間の生活全般に影響を与える。
- 人間の生活は住んでいる地域の自然環境、社会や文化により多様な生活様式となる。

### 【健康】

- 最大限の健康に恵まれることは、あらゆる人々にとっての基本的人権のひとつである。
- 成長発達に応じて、社会的、身体的、感情的な困難に遭遇した際にそれに適応して自分を管理できる力を獲得し発達していく。
- 人間の健康は、個別、流動的である。さらに個々の健康が次世代の健康へとつながっていく。
- 健康は主観的である。生活の質が高く、充実しているほど健康である。
- 健康をより保持・増進するためには、保健医療・福祉システムが十分に機能する必要がある。

### 【看護】

- 看護は人間に関わる科学と技術の分野の一つである。その目的は人生の過程の各段階における環境および各条件の中で、人々の最大限の健康を達成できるように援助する。
- 看護は専門職業であり看護技術を媒介として看護の目標達成に向けた対象との人間的な相互行為の過程である。
- 看護は科学的な根拠に基づいた実践により、セルフケアを支援し、その人らしい生活へと整える。
- 看護は対象の健康の課題を明確にし、その課題を解決するために働きかける。
- 看護は専門職として独自の機能を有し、保健・医療・福祉チームと協働している。
- 看護は社会の変化と人々のニーズに対応し、変化していくものである。よって、看護者には常に研鑽が求められる。

礼 ・ 智 ・ 技

- 1. 様々な状況にある人を思いやり、尊重し合い、相互作用の中で共に成長する力を身につけている
- 2. 物事を様々な視点をもって探究し、看護の質の向上を図る基礎的な能力を身につけている
- 3. 健康の状態やその変化に応じた臨床判断を行う基礎的な能力を身につけている
- 4. 看護実践における道徳的・倫理的な責務を自覚した判断と姿勢を身につけている
- 5. 地域共生社会における看護師の役割及び他職種との役割を理解し、多職種と連携・協働する基礎的な能力を身につけている

統合実習					
人間関係論	看護研究の基礎	看護の統合と実践		看護マネジメント	災害と看護
	保健医療論	老年看護学実習Ⅱ			
リハビリテーション論		成人看護学実習Ⅲ	小児看護学実習	精神看護学実習	地域・在宅看護論実習
	臨床治療Ⅱ	成人看護学実習Ⅱ	母性看護学実習		
病態生理学Ⅴ		成人看護学実習Ⅰ			
	ウィメンズヘルス	褥婦と新生児の看護 妊婦と産婦の看護			
	精神に健康問題のある対象への看護			健康危機状態から回復を促す看護	精神疾患のある対象の地域生活
	健康障害をもつ高齢者の看護	日常生活に支援を必要とする高齢者の看護	臨床判断と看護の実践		精神の健康を守る看護
	健康障害のある子どもの看護	子どもの日常生活援助		小児臨床看護論	高齢者へのきめ細やかな看護
看護カウンセリング	病態生理学Ⅳ	セルフマネジメントを支える看護		周術期の看護	
	公衆衛生学	生活の再構築を支える看護	基礎看護学実習Ⅱ	地域で療養する人への医療支援	生と死を支える看護
国際理解と言語	病態生理学Ⅲ	地域で療養する人への生活支援	臨床看護総論Ⅱ		
	病態生理学Ⅱ	臨床看護総論Ⅰ	基礎看護学実習Ⅰ	地域で療養する人への継続看護	
	病態生理学Ⅰ			社会福祉Ⅱ	
	病理学	臨床看護推論		社会理解特論	
	薬理学	成人看護学概論	老年看護学概論	社会福祉Ⅰ	
	栄養学			関係法規	
		地域・在宅看護概論			
		フィジカルアセスメント		小児看護学概論	母性看護学概論
		看護の思考と表現		老年看護学実習Ⅰ	
	解剖生理学Ⅳ	生活を整える技術Ⅲ			
	解剖生理学Ⅲ	生活を整える技術Ⅱ	回復を促す技術Ⅱ	地域の生活	
	解剖生理学Ⅱ	生活を整える技術Ⅰ	回復を促す技術Ⅰ	地域の環境	
微生物学	解剖生理学Ⅰ				
		看護の基本となる技術			
		看護学概論			
		科学的思考の基礎	人間と生活・社会の理解		

科目及び授業時間数

教育内容	指定規則	科目	単位	時間数	1年次		2年次		3年次	
					単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
基礎分野	科学的思考の基盤	哲学	1	15	1	15				
		教育学	1	15	1	15				
		日本語表現法	1	15	1	15				
		情報科学	1	15	1	15				
		看護物理学	1	15	1	15				
	人間と生活・社会の理解	コミュニケーション論	1	15	1	15				
		心理学	1	15	1	15				
		社会理解特論	1	15			1	15		
		家族社会学	1	15	1	15			1	15
		人間関係論	1	15						
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	1	30	1	30				
		解剖生理学Ⅱ	1	30	1	30				
		解剖生理学Ⅲ	1	30	1	30				
		解剖生理学Ⅳ	1	30	1	30				
		小計	4	120	4	120				
	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	1	30	1	30				
		病理学	1	30	1	30				
		病態生理学Ⅰ	1	30	1	30				
		病態生理学Ⅱ	1	30	1	30				
		病態生理学Ⅲ	1	30			1	30		
病態生理学Ⅳ		1	30	1	30					
病態生理学Ⅴ		1	15			1	30	1	15	
薬理学		1	30	1	30					
栄養学		1	30	1	30					
臨床治療論Ⅰ		1	15			1	15			
健康支援と社会保障制度	公衆衛生学	1	30			1	30			
	社会福祉Ⅰ	1	15	1	15					
	社会福祉Ⅱ	1	15			1	15			
	関係法規	1	15	1	15					
	保健医療論	1	15					1	15	
	リハビリテーション論	1	15					1	15	
	小計	6	180	6	180					
	小計	22	525	12	330	6	135	4	60	
	基礎看護学	看護学概論	1	30	1	30				
		看護の基本となる技術	1	15	1	15				
フィジカルアセスメント		1	30	1	30					
生活を整える技術Ⅰ		1	30	1	30					
生活を整える技術Ⅱ		1	30	1	30					
生活を整える技術Ⅲ		1	30	1	30					
看護の思考と表現		1	15	1	15					
回復を促す技術Ⅰ		1	30	1	30					
回復を促す技術Ⅱ		1	15	1	15					
臨床看護総論Ⅰ		1	30	1	30					
地域・在宅看護論	臨床看護総論Ⅱ	1	30	1	30					
	臨床看護推論	1	15	1	15					
	地域・在宅看護概論	1	30	1	30					
	地域の環境	1	15	1	15					
	地域の生活	1	15	1	15					
	地域で療養する人への生活支援	1	30			1	30			
	地域で療養する人への医療支援	1	30			1	30			
	地域で療養する人への継続看護	1	15			1	15			
	小計	6	180	6	180					
	成人看護学	成人看護学概論	1	30	1	30				
周期期の看護		1	15			1	15			
健康危機状態から回復を促す看護		1	30			1	30			
生活の再構築を支える看護		1	30			1	30			
セルフマネジメントを支える看護		1	30			1	30			
生と死を支える看護		1	30			1	30			
臨床判断と看護の実践		1	15			1	15			
小計		6	180	6	180					
老年看護学		老年看護学概論	1	30	1	30				
		日常生活に支援を必要とする高齢者の看護	1	30			1	30		
	健康障害をもつ高齢者の看護	1	30			1	30			
	高齢者へのきれめのない看護	1	15			1	15			
	小計	4	120	4	120					
	小児看護学	小児看護学概論	1	30	1	30				
		子どもの日常生活援助	1	15	1	15				
		小児臨床看護論	1	30			1	30		
		健康障害のある子どもの看護	1	30			1	30		
		小計	4	120	4	120				
母性看護学		母性看護学概論	1	30	1	30				
		妊婦と産婦の看護	1	30			1	30		
		褥婦と新生児の看護	1	30			1	30		
		ウイメンズヘルス	1	15			1	15		
		小計	4	120	4	120				
	精神看護学	精神看護学概論	1	30	1	30				
		精神の健康を守る看護	1	15			1	15		
		精神に健康問題のある対象への看護	1	30			1	30		
		精神疾患のある対象の地域生活	1	30			1	30		
		小計	4	120	4	120				
看護の統合と実践		看護研究の基礎	1	15					1	15
		看護マネジメント	1	30					1	30
		災害と看護	1	30					1	30
		看護の統合と実践	1	30					1	30
		小計	4	120					4	120
	臨地実習	基礎看護学	1	30	1	30				
		基礎看護学実習Ⅰ	2	60			2	60		
		基礎看護学実習Ⅱ	2	90					2	90
		地域・在宅看護論実習	2	90						
		成人看護学実習Ⅰ	2	90			2	90		
成人看護学実習Ⅱ		2	90			2	90			
成人看護学実習Ⅲ		3	135					3	135	
老年看護学実習Ⅰ		1	30	1	30					
老年看護学実習Ⅱ		2	90					2	90	
小児看護学実習		2	90					2	90	
母性看護学実習	2	90					2	90		
精神看護学実習	2	90					2	90		
看護の統合と実践実習	2	90					2	90		
小計	23	675	23	675						
専門分野 計	66	1560	68	2115	23	585	26	750	19	780
合計(卒業時に必要な時間数:2865時間)			104	2865	46	1095	34	915	24	855

実務経験のある教員による授業科目の一覧表

※専任教員による実践的教育を行っている授業科目のみ掲示

教育内容	授業科目	担当教員	教育内容	授業科目	担当教員
基礎看護学	看護学概論	多田 真理子 磯野 記子	老年看護学	老年看護学概論	清水 沙苗 前田 エリ
	看護の基本となる技術	小林 恭子 八反田 希望		日常生活に支援を必要とする高齢者の看護	清水 沙苗
	フィジカルアセスメント	丸山 修義 小林 恭子		健康障害をもつ高齢者の看護	清水 沙苗
	生活を整える技術Ⅰ	八反田 希望 丸山 修義		高齢者へのきれめのない看護	清水 沙苗
	生活を整える技術Ⅱ	阿保 規子 星野 幸子	小児看護学	小児看護学概論	櫻田 章子 伊藤 ひかる
	生活を整える技術Ⅲ	土屋 早紀 小林 恭子		子どもの日常生活援助	櫻田 章子
	看護の思考と表現	八反田 希望		小児臨床看護論	櫻田 章子 櫻井 里奈 伊藤 ひかる
	回復を促す技術Ⅰ	土屋 早紀 星野 幸子		健康障害のある子どもの看護	櫻田 章子 櫻井 里奈
	回復を促す技術Ⅱ	土屋 早紀	母性看護学	母性看護学概論	松浦 千恵 山田 千香子
	臨床看護総論Ⅰ	阿保 規子 星野 幸子		妊婦と産婦の看護	松浦 千恵 高橋 郁絵
	臨床看護総論Ⅱ	小林 恭子 八反田 希望 丸山 修義 阿保 規子		褥婦と新生児の看護	松浦 千恵 高橋 郁絵
	臨床看護推論	丸山 修義		ウイメンズヘルス	高橋 郁絵 山田 千香子
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論	品田 裕子	精神看護学	精神看護学概論
地域の環境		正武家 由美子	精神の健康を守る看護		細田 梓
地域の生活		品田 裕子	精神に健康問題のある対象への看護		細田 梓
地域で療養する人への生活支援		正武家 由美子	精神疾患のある対象の地域生活		細田 梓
地域で療養する人への医療支援		馬淵 由美子 品田 裕子	看護の統合と実践	看護研究の基礎	櫻田 章子
地域で療養する人への継続看護		品田 裕子		看護マネジメント	大塚 ひとみ 櫻田 章子
成人看護学概論	馬淵 由美子 竹本 雄也	災害と看護		渋谷 里子	
成人看護学	周術期の看護	竹本 雄也	看護の統合と実践	渋谷 里子	
	健康危機状態から回復を促す看護	藤原 美穂 竹本 雄也 望月 絵里香	計 1140時間		
	生活の再構築を支える看護	岩岡 由紀子 畑山 美加子	設置基準上の標準単位数	102単位	
	セルフマネジメントを支える看護	藤原 美穂			
	生と死を支える看護	畑山 美加子			
臨床判断と看護の実践	岩岡 由紀子				

## 教育課程実施に関する事項

<便覧より一部抜粋>

### 1. 講義・演習について

- 1) 講義・演習 90分(2時間換算)とする。
- 2) 時間割は、学年ごとに配布する。
- 3) 時間中の飲食及び携帯電話の使用を原則禁止する。

第1時限	9:00～10:30
第2時限	10:45～12:15
第3時限	13:15～14:45
第4時限	15:00～16:30

### 2. 臨地実習について・・・実習については別に定め、実習開始にあたって詳細を伝える。

### 3. 単位履修について

#### 1) 履修方法

学生は、原則として教育課程に定められている順序で履修しなければならない。したがって、臨地実習を内容とする授業科目を履修するためには、原則として基礎看護学実習の単位を修了しておくこと。

#### 2) 単位の履修認定

- ①授業履修認定は、卒業に係る重要な要件であるため、日頃の学習成果が発揮できるよう、十分な準備をして臨むこと。
- ②授業料その他納入金の未納者は、延納の手続がなければ、単位の履修認定はできない。
- ③授業履修認定は、試験によって行う。
- ④試験時間は原則として50分とする。
- ⑤試験の方法には、筆記、口頭、レポート、実技等がある。
- ⑥筆記試験以外の評価対象物には 

評価対象： ○点
----------

 と表記される。取り組みについては指示に従うこと。
- ⑦試験実施にあたっては、数種類の試験方法を併用することがある。
- ⑧試験期日は、実施の一週間前までに発表することを原則とする。
- ⑨試験のときは、学籍番号順に試験開始5分前までに着席する。
- ⑩鉛筆・消しゴム以外のものは監督の指示に従う。
- ⑪携帯電話・ウェアラブル端末は電源を切り、かばんの中に入れる。
- ⑫学生証を机の右上に置く。仮身分証での代用は可能とする。
- ⑬試験開始に遅れる場合は必ず学校へ電話にて連絡をする。
- ⑭試験開始後に退室することはできない。
- ⑮やむを得ない事情（病気、列車遅延30分以上など）で試験を欠席する学生は、あらかじめ学年担当教員に連絡すること。その余裕のない場合は電話で連絡するとともに、後日欠席届及び欠席の理由を示す証明書を速やかに提出すること。
- ⑯試験前中後に拘わらず、不正行為のあった者または不正があったと認められる者については、学校長が当該受験科目の受験無効措置を講ずるものとする。又、試験に代わるレポート、成果物、実習記録等に関わる不正についても同様とする。
- ⑰本人が特定できない場合は、得点にならない。
- ⑱試験方法がレポートの場合、提出期限・場所はその都度担当講師の指示に従う。提出期限に間に合わない者、提出場所の違う者は減点対象とする。
- ⑲前項の規定にかかわらず、学校長がやむを得ないと認める場合はこの限りではない。

### 3) 学修評価

学修の成績並びにその評価は、次の通りとする。

試験・実習による評点	本試の評価	再試・再実習 の評価	追試・追実習 の評価	単位履修判定
100点～80点	A	C	A	合格
80点未満～70点	B	C	B	
70点未満～60点	C	C	C	
60点未満	D	D	D	不合格

- ① 前期、後期の成績表は評点で表記する
- ② 成績証明書はA～Dで表記する
- ③ 追試験は素点に対し「0.8」をかけた点数を評点とする
- ④ 追実習は素点を評点とする
- ⑤ 単位取得に関わる事由が病気の場合、診断書の提出が求められる

### 4) 追試験・再試験

<追試験>

- ① 病気その他不可避の事由（忌引、感染症等）で試験を受けられなかった場合で、学校長の決定により承認を得られた者については、追試験を受けることができる。原則、1回のみとする。
- ② 追試験を希望する者は、欠席の事由が終了後、速やかに教員に願い出ること。その場合、追試験願の用紙、欠席届及び欠席の理由を示す証明書（診断書など）を提出しなければならない。  
\* 病気の場合は診断書、忌引きは確認できるもの。
- ③ 追試験を認められた者は、追試験願の用紙をもって、実施日までに、事務室受付にて手続きをしなければならない。
- ④ 追試験は欠席の事由終了後、速やかに行う。

<再試験>

- ① 本試験及び追試験が不合格の者、不可避の事由にあたらぬ事由で欠席した者は、再試験を受けることができる。
- ② 再試験は、60点をもって最高点とする。
- ③ 再試験を希望する者は、所定の用紙に必要事項を記入し、実施日までに、事務室受付にて手続きをしなければならない。
- ④ 再試験の実施時期は、時間割であらかじめ明示する。

### 5) 追実習・再実習・・・便覧参照

### 6) 追・再試験料等

追試験・再試験、追実習・再実習を希望する場合の手続き時には、下記の受験料を、実施日までに納付すること。

追試験（1科目）	3,000円
再試験（1科目）	2,000円
再実習（1日につき）	500円
追実習（1日につき）	500円

### 7) 最終試験

再試験を不合格となった場合、各学年において1科目のみ最終試験を受けることができる。  
評価・手続きは、再試験に準ずる。

### 8) 再履修について

原則として実習中に他の科目を同時に履修することはできない。

# 基 礎 分 野

## 14 単位 (225 時間)

### <ねらい>

- 科学的思考を高め、自ら判断し行動ができる能力を養う。
- 国際化、情報化社会で活用する技能を養う。
- 社会の構造と機能、人間と社会の関わりを理解する。
- ヒューマニティに富み、対人関係における感性を養う。
- 人生の意義、生命の質を模索し自己の確立の手だてとなる。
- 人間を尊重した基本的態度を養う。
- より良い人間関係を成立するためのコミュニケーションの基礎を学ぶ。
- 身近な課題を見出し、解決していくプロセスを学ぶ。

### <構 成>

教育内容	科 目	単位	時間数
科学的思考の基盤	哲学	1	15
	教育学	1	15
	日本語表現法	1	15
	情報科学	1	15
	看護物理学	1/5	15/75
人間と生活・社会の理解	コミュニケーション論	1	15
	心理学	1	15
	社会理解特論	1	15
	家族社会学	1	15
	人間関係論	1	15
	英語	1	15
	国際理解と言語	1	15
	保健体育	1	30
	共に学ぶ健康と生活	1/9	15/150
合 計		14	225

科目名	哲学		担当教員	横澤 義夫		
基礎分野	教育内容	科学的思考の基礎	単位数 時間数	1単位 15時間	年次	1年次

#### 授業概要

人間とは何か、また生きる意味を考えるきっかけとする。人間は身体的、精神的、社会的、靈的側面を持ち、個別的存在である。対象と自らの価値観を尊重し人生観を深めるとともに、生と死について考える。また、倫理学の基本を学ぶ。

#### 授業のねらい

1. 哲学の抽象的な概念を学び、社会で生じている事象について深く考える。
2. 人生観を深めるとともに、自己の生き方を思索する。
3. 「人間関係・生・死・老い」について考える。
4. 倫理的行動について考える。

#### 授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	哲学とは	講義/演習	
2	イオニア自然学からソクラテスへ	講義/演習	
3	プラトンの生命論	講義/演習	
4	アリストパネスのエロース論	講義/演習	
5	ソクラテスのエロース論	講義/演習	
6	アリストテレスの生命論	講義/演習	
7	生命のヒエラルヒー	講義/演習	
8	人間とは何か	講義	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

#### 使用教科書・教材・参考書

なし

#### 成績評価の方法

レポート100点

#### 備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。  
各授業におけるレポート課題があります。

科目名	教育学		担当教員	渡部 忠治		
基礎分野	教育内容	科学的思考の基礎	単位数 時間数	1単位 15時間	年次	1年次

授業概要

人間形成における教育の機能と原理を学び、自己教育力、学習力を高め生涯学習へと繋げるとともに、看護活動における教育的役割に応用できる基礎を学ぶ。

授業のねらい

- 1.人間形成における教育の機能と原理を学ぶ。
- 2.教育のプロセスを理解し、主体的学習方法について理解する。

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	教育学とは 教育の機能・原理、生涯学習	講義	
2	教育の機能と学校の役割 いじめ問題	講義/演習	
3	教育的指導と人権 体罰問題	講義/演習	
4	家庭の教育機能と社会支援(1) 子ども虐待の背景	講義/演習	
5	家庭の教育機能と社会支援(2) 子ども虐待の予防と教育的視点	講義/演習	
6	教育・学習過程におけるジェンダー形成(1) 性別役割分業と子育て	演習	
7	教育・学習過程におけるジェンダー形成(2) 結婚と子育て	演習	
8	多様性と教育	演習	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用教科書・教材・参考書

なし

成績評価の方法

レポート100点

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	日本語表現法		担当教員	新島 尚子		
基礎分野	教育内容	科学的思考の基礎	単位数 時間数	1単位 15時間	年次	1年次

授業概要

論理の形式や構造を学び、物事を客観的にとらえる見方や自分の考えを深め、理解力と表現力を高める。

授業のねらい

- 1.日本語を読み、書く力を養成する。
- 2.自分の考えを深め、理解力と表現力を高める。

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	社会人、医療人としての言葉遣いの大切さ	講義	
2	敬語の理解、使い分け(1)	講義/演習	
3	敬語の理解、使い分け(2)	講義/演習	
4	敬語の仕上げ	講義/演習	
5	文法(1)	講義/演習	
6	文法(2)	講義/演習	
7	文法(3) 動詞の自他、視点(1)	講義/演習	
8	動詞の自他、視点(2)	講義/演習	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用教科書・教材・参考書

配布資料

成績評価の方法

筆記試験100点

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	情報科学		担当教員	佐藤 香織		
基礎分野	教育内容	科学的思考の基礎	単位数 時間数	1単位 15時間	年次	1年次

#### 授業概要

情報技術の進歩により、AI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)、そしてインターネット自体が私達の生活や仕事のあり方を根本的に変えつつあります。この授業では、これらの技術や概念について基本的な理解を深めるとともに、実際の使用方法についても学んでいきます。具体的には、現代の情報社会で必須のスキルであるインターネットやウェブの基本原理、ブラウザやメールソフトの使用方法、そしてWord・Excel・PowerPointの使用方法を学ぶことで、効果的なコミュニケーションや情報の整理・分析の向上を目指します。

#### 授業のねらい

1. 情報の活用能力の向上を目指して、コンピューター操作の実際を学ぶ。
2. 情報通信技術 (ICT) を活用する基礎を学び、情報や個人情報保護について理解する。

#### 授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	情報社会とデジタルリテラシー	講義	
2	インターネット活用(ブラウザの使い方・メール送受信・オンラインミーティング)	講義/演習	
3	Word操作(配置・フォント装飾・箇条書き・インデント・図表挿入)	講義/演習	
4	Word演習課題	演習	
5	Excel操作(計算と表作成・ピポットテーブルによる集計・グラフ)	講義/演習	
6	Excel演習課題	演習	
7	PowerPoint操作(配置・文字装飾・箇条書き・画像挿入・表挿入)	講義/演習	
8	PowerPoint演習課題	演習	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

#### 使用教科書・教材・参考書

#### 配布資料

#### 成績評価の方法

筆記試験100点

#### 備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	看護物理学		担当教員	西條 奈緒美		
基礎分野	教育内容	科学的思考の基礎	単位数 時間数	1単位 15時間	年次	1年次

#### 授業概要

看護技術や医療における検査・治療に関する原理・原則の理解を深めるための知識や、安全で快適な作業環境、安全で使いやすい器具・技法、効率よく充実した生活環境を実現につなげる。

#### 授業のねらい

1. 単位換算、計算の基礎事項を理解する。
2. 看護に必要とされる数式を理解し、応用できる力を身につける。

#### 授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	単位換算、四則計算、割合に関する数式とその応用 時間と時刻に関する数式と応用	講義	
2	比の計算とその応用	講義	
3	溶液に関する数式とその応用(1)(濃度変更式) 溶液に関する数式とその応用(2)(重量と体積)	講義	
4	輸液に関する数式とその応用(1)(滴下数) 体格に関する数式とその応用(1)	講義	
5	輸液に関する数式とその応用(2)(滴下速度)	講義	
6	体格に関する数式とその応用(2) 酸素吸入に関する数式とその応用	講義	
7	エネルギーに関する数式とその応用	講義	
8	数式の確認	講義	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

#### 使用教科書・教材・参考書

#### 配布資料

#### 成績評価の方法

筆記試験100点

#### 備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。  
授業内容の教科書範囲の予習を行ってください。

科目名	コミュニケーション論		担当教員	萩澤 健志		
基礎分野	教育内容	人間と生活・社会の理解	単位数 時間数	1単位 15時間	年次	1年次

授業概要

人間集団において活用される人間関係技法をもとに、よりよい人間関係づくりやコミュニケーションについて学び、看護活動やチーム医療の関係づくりにつなげる。

授業のねらい

- 1.人間集団において活用される人間関係技法を学ぶ。
- 2.よりよい人間関係づくりやコミュニケーションについて学び看護活動やチーム医療の実践に活用する。

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	対人コミュニケーション ・気持ちのキャッチボール	講義/演習	
2	言語的メッセージと非言語的メッセージ	講義	
3	自己理解/他者理解 ・対人コミュニケーション	講義/演習	
4	人と関わるときの態度 ・アサーティブな自己表現	講義/演習	
5	積極的傾聴	講義	
6	相手に関心を持ち肯定的に聴く	講義/演習	
7	自他尊重 自己開示と自己呈示	講義/演習	
8	自己主張するときの権利と責任	講義/演習	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用教科書・教材・参考書

配布資料

成績評価の方法

出席状況、授業態度、リアクションペーパー50点 筆記試験50点

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	心理学		担当教員	伊藤 安代		
基礎分野	教育内容	人間と生活・社会の理解	単位数 時間数	1単位 15時間	年次	1年次

#### 授業概要

人間の心と行動について学び、自己と他者を理解する。また、成人への成長・発達に伴う変化と個人差について理解する。カウンセリング概説を学ぶ。

#### 授業のねらい

- 1.人間の心と行動について学ぶ。
- 2.自己と他者の違いが理解できる。
- 3.成人への成長・発達に伴う変化と個人差について理解する。

#### 授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	心理学とは	講義	
2	知覚の心理	講義	
3	記憶の心理	講義	
4	発達の心理と知能検査	講義	
5	性格の心理と性格検査	講義	
6	適応の心理と恋愛の心理	講義	
7	社会問題の心理	講義	
8	患者の心理	講義	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

#### 使用教科書・教材・参考書

#### 配布資料

#### 成績評価の方法

筆記試験100点

#### 備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	社会理解特論		担当教員	渡部 忠治		
基礎分野	教育内容	人間と生活・社会の理解	単位数 時間数	1単位 15時間	年次	2年次

#### 授業概要

看護の対象は生活している人間である。人間が生活している社会の構造・機能について学ぶ。現代社会の諸問題に対する視野を拡大し、自己の生活を概観することを期待する。

#### 授業のねらい

- 1.社会的存在としての人間を理解する。
- 2.人間が生活している社会の構造・機能について学ぶ。
- 3.現代社会の諸問題について理論点やトピックから学ぶ。

#### 授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	社会とは何か、発表準備	講義/演習	
2	グループ発表(1)	演習	
3	社会問題(1)、発表準備	講義/演習	
4	グループ発表(2)	演習	
5	社会問題(2)、発表準備	講義/演習	
6	グループ発表(3)	演習	
7	社会問題(3)、発表準備	講義/演習	
8	グループ発表(4)	演習	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

#### 使用教科書・教材・参考書

DVDなど視聴覚資料  
新聞

#### 成績評価の方法

出席状況、授業態度、プレゼンテーションを総合して100点

#### 備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	家族社会学		担当教員	池本 紗良		
基礎分野	教育内容	人間と生活・社会の理解	単位数 時間数	1単位 15時間	年次	1年次

#### 授業概要

家族社会学の基本概念と日本社会における家族変動の基本概念を学ぶ。現代的なトピックである「結婚」「仕事」「介護」が「家族」とどのように関わっているのかを、テキストならびに映像資料等を用いながら理解する。

#### 授業のねらい

1. 現代日本の家族の抱えるさまざまな課題について学ぶ。
2. 家族に対する社会的支援の重要性について学ぶ。
3. 家族の危機的場面における支援の基本的理念について学ぶ。

#### 授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	「家族」とは何か ・家族の定義、家族・親族・世帯 ・家族の多様なかたち	講義	
2	近代家族の誕生 ・家族をとらえる基本概念 ・伝統家族から近代家族へ	講義	
3	恋愛と結婚(1) ・未婚化・晩婚化 ・ロマンティックラブイデオロギー	講義	
4	恋愛と結婚(2) ・離婚と再婚の動向 ・ステップファミリー	講義/演習	
5	子ども・若者と家族 ・現代日本における家庭教育 ・社会階層と教育	講義/演習	
6	仕事と家族 ・女性活躍とはなにか ・ワークライフバランス	講義/演習	
7	介護と家族(1) ・介護保険制度	講義	
8	介護と家族(2) ・家族介護の現状 ・介護の社会化、再家族化	講義/演習	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

#### 使用教科書・教材・参考書

#### 配布資料

#### 成績評価の方法

筆記試験100点

#### 備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	人間関係論		担当教員	新島 尚子		
基礎分野	教育内容	人間と生活・社会の理解	単位数 時間数	1単位 15時間	年次	3年次

授業概要

対人関係のありようが看護者の精神過程および行動にいかに関与しているかを理解し、よりよい人間関係の形成につなげる。

授業のねらい

- 1.よりよい人間関係形成の方法を理解する。
- 2.対人関係改善について理解する。

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	人間関係を理解するためのコミュニケーション心理学の概念	講義/演習	
2	人間関係の中の自己と他者	講義/演習	
3	ストロークを学ぶ	講義/演習	
4	ストロークとディスカウント、ストローク経済の法則	講義/演習	
5	人生の立場(1)	講義/演習	
6	人生の立場(2) やりとり分析(1)	講義/演習	
7	やりとり分析(2) 医療場面でのやりとり分析	講義/演習	
8	総括と今後の課題	講義/演習	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用教科書・教材・参考書

配布資料

成績評価の方法

筆記試験100点

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	英語		担当教員	調 誠 也		
基礎分野	教育内容	人間と生活・社会の理解	単位数 時間数	1単位 15時間	年次	1年次

#### 授業概要

看護に関する用語ならびに関連専門用語を国際的言語となっている英語で学び、医療英語の基礎を身につける。

#### 授業のねらい

- 1.外国人患者と特にベッドサイドにおいて円滑な意思の疎通を可能とする能力を養う。
- 2.医療分野の専門用語・専門知識を英語で学び、英語が多用される医療現場に対応できる力を身につける。

#### 授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	初対面の患者と接する際の表現 患者の個人情報収集する際の表現	講義/演習	
2	病院で働く人達の名称 痛みについて尋ねる表現	講義/演習	
3	バイタルサインをとる際の表現 看護師が扱う代表的な医療器具の表現	講義/演習	
4	入院時の案内の表現 人体各部の名称の表現(1)	講義/演習	
5	症状について尋ねる表現 一般的な病名、人体各部の名称の表現(2)	講義/演習	
6	患者の日常生活、生活習慣について尋ねる際の表現 検査についての表現	講義/演習	
7	検査手順、体位変換に関する表現(3) 排泄補助具についての表現	講義/演習	
8	退院時、励ましの表現 医師からの指示の説明、人体各部の名称(4)	講義/演習	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

#### 使用教科書・教材・参考書

臨床看護英語第6版 医学書院

#### 成績評価の方法

筆記試験100点

#### 備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	国際理解と言語		担当教員	高須賀 茂文		
基礎分野	教育内容	人間と生活・社会の理解	単位数 時間数	1単位 15時間	年次	2年次

#### 授業概要

国際化社会に対応しうる英会話の基礎を学び、外国の文献通読にも役立つ英会話力・読解力を養う。また、海外の看護・医療の現状を知り、わが国の看護のあり方を考察する機会とする。

#### 授業のねらい

- 1.国際化社会に対応しうる英会話の基礎を学ぶ。
- 2.英語文献の活用、海外研修を通し海外の看護に関心を持つ。

#### 授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	世界は日本をどう見ているか	講義	
2	海外研修で使う英語	講義	
3	医療現場で使う英語と英字文献	講義/演習	
4	米国など海外の医療福祉制度	講義	
5	米国にとって「パールハーバー」は何を意味するのか	講義	
6	海外における危機管理・健康管理	講義	
7	海外研修	その他	
8	海外研修	その他	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

#### 使用教科書・教材・参考書

#### 配布資料

#### 成績評価の方法

各授業終了時、リフレクションシート60点 海外研修40点

#### 備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	保健体育		担当教員	松永 美咲		
基礎分野	教育内容	人間と生活・社会の理解	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

#### 授業概要

肥満・メタボリックシンドロームなど身体機能の科学的分析を学び健康の維持・増進における運動の重要性を学ぶ。

#### 授業のねらい

- 1.運動にともなう心身の変化、適応について実技を交えながら学ぶ。
- 2.集団競技を通じてリーダーシップ、メンバーシップ等を学ぶ。

#### 授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	保健体育を学ぶ意義	講義	
2	体づくり運動	講義/演習	
3	運動習慣、行動変容、運動計画の作成	講義	
4	運動習慣、行動変容、運動実施の振り返り	講義	
5	発育発達、運動あそび	講義/演習	
6	はたらく場における健康問題	講義	
7	生活習慣病と運動・身体活動	講義	
8	生活習慣病予防のための運動・身体活動	講義/演習	
9	介護予防	講義	
10	介護予防のための運動・身体活動	講義/演習	
11	健康問題に対処するための運動・身体活動(1)	講義/演習	
12	健康問題に対処するための運動・身体活動(2)	講義/演習	
13	校外活動(1)	その他	
14	校外活動(2)	その他	
15	校外活動(3)	その他	

#### 使用教科書・教材・参考書

#### 配布資料

#### 成績評価の方法

出席状況・参加態度および課題により総合して評価する100点

#### 備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	共に学ぶ健康と生活		担当教員	多田 真理子		
基礎分野	教育内容	人間と生活・社会の理解	単位数 時間数	1単位 15時間	年次	1年次

#### 授業概要

何のために何をやり遂げたいのかを一人ひとりが明確に持ち、意思ある学習をしていくための基本的姿勢を身につける。学ぶために必要な「聴く力」「話す力」「読む力」「書く力」「調べる力」の基本を身につけられるよう講義・演習を行う。自分自身の身体に対する気づきを喚起する機会となる。

#### 授業のねらい

- 1.プロジェクト学習を通して自ら学習していく姿勢が身につく。
- 2.自分自身の健康と生活に対する気づきを得る。

#### 授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	様々な学習方法	講義	
2	ナイチンゲール時代と現代の健康(1)	講義/演習	
3	ナイチンゲール時代と現代の健康(2)	講義/演習	
4	ナイチンゲール時代と現代の健康(3)	演習	
5	健康的な生活と自己の生活(1)	講義/演習	
6	健康的な生活と自己の生活(2)	演習	
7	健康的な生活と自己の生活(3)	演習	
8	健康的な生活と自己の生活(4)	演習	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

#### 使用教科書・教材・参考書

看護覚え書き-本当の看護とそうでない看護- 日本看護協会出版会

#### 成績評価の方法

レポート及び成果物と参加態度を総合的に評価する100点

#### 備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

# 専 門 基 礎 分 野

## 22 単位 (525 時間)

<ねらい>

- 人体を系統立てて構造と機能を理解し人間のもつ能力を知る。
- 医療の発展と課題を学び看護の役割について考える。
- 疾病の成り立ちを学び健康維持・回復の促進に関する観察する力、判断する力を身につけていく。
- 人間の生活を取り巻く環境と生活習慣を整えるための基礎的能力を学ぶ。
- 人々の生活の行政的基盤となっている仕組み、組織編成・構成を学ぶ。
- 人々が自らよりよい生活を営むための社会資源の活用に関して支援する基礎的能力を学ぶ。
- 地域における関係諸機関との連携を理解する。
- 看護師としての倫理的判断に則った態度の遵守について理解する。

<構 成>

教育内容	科 目	単 位	時間数
人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	1	30
	解剖生理学Ⅱ	1	30
	解剖生理学Ⅲ	1	30
	解剖生理学Ⅳ	1/4	30/120
疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	1	30
	病理学	1	30
	病態生理学Ⅰ	1	30
	病態生理学Ⅱ	1	30
	病態生理学Ⅲ	1	30
	病態生理学Ⅳ	1	30
	病態生理学Ⅴ	1	15
	薬理学	1	30
	栄養学	1	30
	臨床治療論Ⅰ	1	15
	臨床治療論Ⅱ	1	15
	看護カウンセリング	1/12	15/300
健康支援と社会保障制度	公衆衛生学	1	30
	社会福祉Ⅰ	1	15
	社会福祉Ⅱ	1	15
	関係法規	1	15
	保健医療論	1	15
	リハビリテーション論	1/6	15/105
合 計		22	525

科目名	解剖生理学 I		担当教員	綱脇 慎治		
専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

#### 授業概要

人体の構造と機能を学ぶための基礎知識を理解する。からだをつくる栄養・代謝機能と内臓機能を調節する内分泌のはたらきについて学ぶ。

#### 授業のねらい

- 1.人体をつくる細胞・組織と構造と機能からみた人体を理解する。
- 2.栄養の吸収、代謝と排泄のメカニズムを理解する。
- 3.内臓機能を調節するメカニズムを理解する。

#### 授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	解剖生理学の基礎的事項(1)	講義	
2	解剖生理学の基礎的事項(2)	講義	
3	細胞と組織(1)	講義	
4	細胞と組織(2)	講義	
5	消化器系・食欲	講義	
6	咀嚼・嚥下	講義	
7	消化(1)	講義	
8	消化(2)	講義	
9	吸収・排泄(1)	講義	
10	吸収・排泄(2)	講義	
11	内分泌系とホルモン	講義	
12	脳にあるホルモン分泌器官・甲状腺	講義	
13	上皮小体・膵臓	講義	
14	副腎・性腺	講義	
15	ホルモンを分泌するそのほかの器官や組織・内分泌系の成長と老化	講義	

#### 使用教科書・教材・参考書

人体の構造と機能①解剖生理学 メディカ出版

#### 成績評価の方法

筆記試験100点

#### 備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	解剖生理学Ⅱ		担当教員	宮宗 秀伸		
専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

#### 授業概要

血液によって栄養や酸素を細胞に運搬している。生命を維持する呼吸・循環機能と血球とリンパのはたらきについて学ぶ。

#### 授業のねらい

- 1.呼吸と血液循環のメカニズムを理解する。
- 2.造血のメカニズムと血球のはたらきを理解する。
- 3.リンパのはたらきを理解する。

#### 授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	血液・循環器系	講義	
2	血液の機能と成分	講義	
3	血球とその機能・血液型と輸血	講義	
4	心臓	講義	
5	血管と循環(1)	講義	
6	血管と循環(2)	講義	
7	心臓、血管の成長と老化・リンパ系	講義	
8	呼吸器系・呼吸器系の構造と機能	講義	
9	気道の構造と機能(1)	講義	
10	気道の構造と機能(2)	講義	
11	肺の構造(1)	講義	
12	肺の構造(2)・縦郭	講義	
13	呼吸のプロセス(1)	講義	
14	呼吸のプロセス(2)	講義	
15	呼吸の調整・呼吸器系の成長と老化	講義	

#### 使用教科書・教材・参考書

人体の構造と機能①解剖生理学 メディカ出版

#### 成績評価の方法

筆記試験100点

#### 備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	解剖生理学Ⅲ		担当教員	綱脇 慎治		
専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

#### 授業概要

内部環境を整える体液の調節と外部環境からの防御について学ぶ。また、からだの支持と運動機能について学ぶ。

#### 授業のねらい

1. 体液の組織と調節のメカニズムを理解する。
2. からだを支持する構造とはたらきを理解する。
3. 外部環境から防御するメカニズムを理解する。

#### 授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	体液の調整(1)	講義	
2	体液の調整(2)	講義	
3	腎臓	講義	
4	尿管・膀胱・尿道	講義	
5	排尿の生理・泌尿器系の成長と老化	講義	
6	骨と骨格	講義	
7	頭蓋、体幹の骨格	講義	
8	体肢の骨格・関節の構造と種類・骨格系の成長と老化	講義	
9	筋の種類・筋の機能・身体の運動と骨格筋	講義	
10	骨格筋の解剖整理	講義	
11	膜	講義	
12	免疫系のおおまかなしくみ・獲得免疫系のしくみ	講義	
13	自然免疫系の仕組みと獲得免疫系との関連・免疫系と感染症	講義	
14	アレルギーと自己免疫疾患	講義	
15	体熱産生と体温	講義	

#### 使用教科書・教材・参考書

人体の構造と機能①解剖生理学 メディカ出版

#### 成績評価の方法

筆記試験100点

#### 備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	解剖生理学IV		担当教員	夏山 裕太郎		
専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

授業概要

情報を受容し処理する機能がからだを動かし安全に保つことを学ぶ。また、生殖・発生と老化のしくみについて学ぶ。

授業のねらい

- 1.情報の受容と処理を司る器官の構造と機能を理解する。
- 2.生殖・発生と老化のしくみについて理解する。

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	神経系の分類と神経組織の構造と機能	講義	
2	中枢神経系(1)	講義	
3	中枢神経系(2)	講義	
4	中枢神経系(3)	講義	
5	末梢神経系(1)	講義	
6	末梢神経系(2)・神経系の成長と老化・神経系の障害	講義	
7	感覚器系とは、視覚	講義	
8	視覚	講義	
9	聴覚と平衡覚	講義	
10	化学的感覚(嗅覚・味覚)・体性感覚	講義	
11	内臓感覚・感覚器系の成長と老化	講義	
12	女性生殖器の構造と機能	講義	
13	性周期・女性生殖器の成長と老化	講義	
14	妊娠と出産・乳腺	講義	
15	男性生殖器の構造と機能・男性生殖器の成長と老化	講義	

使用教科書・教材・参考書

人体の構造と機能①解剖生理学 メディカ出版

成績評価の方法

筆記試験100点

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	微生物学		担当教員	石川 裕樹		
専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

#### 授業概要

代表的な病原微生物の性質を理解し、臨床の現場に活かすために感染管理について学び消毒やスタンダードプリコーションの実際を学ぶ。

#### 授業のねらい

1. 代表的な病原微生物の性質を理解する
2. 臨床における感染管理の基礎を理解する

#### 授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	微生物学総論	講義	
2	免疫学総論	講義	
3	細菌とは？ グラム陰性球菌	講義	
4	グラム陽性球菌 ブドウ球菌・レンサ球菌・肺炎球菌	講義	
5	グラム陽性桿菌 炭疽菌・セレウス・ジフテリア・リステリア	講義	
6	グラム陽性桿菌 破傷風・ボツリヌス菌・ディフィシル菌	講義	
7	グラム陰性桿菌 腸内細菌科	講義	
8	グラム陰性桿菌 ビブリオ科・バクテロイデス他	講義	
9	グラム陰性桿菌 好気性菌	講義	
10	抗酸菌属 結核菌、非結核性抗酸菌、らい菌	講義	
11	特殊細菌 マイコプラズマ、クラミジア、リケッチア	講義	
12	真菌 表在性真菌症他	講義	
13	寄生虫 原虫他	講義	
14	ウイルス 上気道感染	講義	
15	ウイルス 消化管感染症	講義	

#### 使用教科書・教材・参考書

疾病の成り立ちと回復の促進③臨床微生物・医動物 メディカ出版

#### 成績評価の方法

筆記試験100点

#### 備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	病理学		担当教員	百瀬 修久		
専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

授業概要

健康から疾病に至る変化のプロセスと、その結果生じた形態学的変化や機械的障害を学ぶ。病態生理の各論へのイントロダクションとなる。

授業のねらい

1. 疾病の原因とその結果生じた形態学的変化や機械的障害について理解する。

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	身体の構造の障害と機能の乱れ	講義	
2	遺伝子異常、細胞損傷・変性と細胞死	講義	
3	腫瘍、炎症と修復	講義	
4	免疫異常、感染	講義	
5	循環障害、体液異常	講義	
6	代謝異常、中毒	講義	
7	放射線障害、外傷	講義	
8	病態症候論1(症候と疾病の関係、身体の不調のとらえ方、痛み、頭痛、胸痛、腹痛、腰背部痛、関節痛)	講義	
9	病態症候論2(高体温・低体温、倦怠感、睡眠障害、皮膚掻痒、食欲不振、悪心・嘔吐)	講義	
10	病態症候論3(体重増加・体重減少、肥満、浮腫、脱水、尿量異常、排尿回数異常、尿所見異常)	講義	
11	病態症候論4(リンパ節腫脹、ショック、意識障害、けいれん、めまい)	講義	
12	病態症候論5(嗝声、呼吸困難、咳嗽・喀痰・咯血、チアノーゼ)	講義	
13	病態症候論6(不整脈、貧血、レイノー症状、感覚過敏・感覚鈍麻、しびれ)	講義	
14	病態症候論7(運動麻痺・運動失調、腹水、腹部膨満、摂食嚥下障害)	講義	
15	病態症候論8(吐血、下血、下痢、便秘、黄疸)	講義	

使用教科書・教材・参考書

疾病の成り立ちと回復の促進①病態生理学 メディカ出版

成績評価の方法

筆記試験100点

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	病態生理学 I		担当教員	久保川 利哉		
専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

#### 授業概要

呼吸・循環障害の成り立ちとそれに伴う症状と成り行きについて学ぶ。病態を示すデータの読み方について学び機能障害の程度を把握する。また、小児の主な病気についても学び成人との違いについても考える機会となる。

#### 授業のねらい

- 1.呼吸・循環障害の成り立ちとそれに伴う症状、成り行きについて理解する。
- 2.小児の主な疾患の成り立ちとそれに伴う症状、成り行きについて理解する。

#### 授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	呼吸器の構造と機能、呼吸器科で行われる検査	講義	
2	呼吸不全、酸素化障害、換気障害	講義	
3	肺循環障害、呼吸器感染症	講義	
4	肺癌、免疫・アレルギー性肺疾患	講義	
5	循環器の構造と機能、循環器系の検査	講義	
6	心不全、血圧異常	講義	
7	アテローム性動脈硬化症、冠血流障害	講義	
8	刺激伝導系の障害、弁機能の障害	講義	
9	心筋障害、心臓の異常、血管の器質異常	講義	
10	先天異常・神経系疾患(小児)	講義	
11	代謝・内分泌・腎・泌尿器疾患(小児)	講義	
12	アレルギー・呼吸器疾患(小児)	講義	
13	消化器疾患(小児)	講義	
14	循環器・免疫疾患(小児)	講義	
15	血液・腫瘍疾患	講義	

#### 使用教科書・教材・参考書

疾患と看護①呼吸器 メディカ出版  
 疾患と看護②循環器 メディカ出版  
 小児看護学③小児の疾患と看護 メディカ出版

#### 成績評価の方法

筆記試験100点

#### 備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	病態生理学Ⅱ		担当教員	久保川 利哉		
専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

#### 授業概要

血球のはたらきが障害されることに伴う症状と成り行き、データの示す意味について学ぶ。排泄機能障害では排尿のメカニズムの障害について学び、性・生殖器の障害では胎児への影響についても考える機会となる。

#### 授業のねらい

1. 造血機能障害の成り立ちとそれに伴う症状、成り行きを理解する。
2. 排泄経路障害の成り立ちとそれに伴う症状と成り行きについて理解する。
3. 性・生殖機能障害の成り立ちとそれに伴う症状と成り行きについて理解する。

#### 授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	血液の組成と機能、血液・造血器の異常で行われる検査	講義	
2	貧血、出血傾向、血球異常、リンパ腫	講義	
3	免疫にかかわる細胞・器官とそれらの機能、免疫機能の異常で行われる検査	講義	
4	アレルギー、自己免疫疾患	講義	
5	感染症でみられる症候、感染症で行われる検査	講義	
6	ウイルス感染症、細菌感染症	講義	
7	腎臓の構造と機能、腎臓内科で行われる検査	講義	
8	腎不全、原発性糸球体疾患	講義	
9	泌尿器の構造と機能、泌尿器科で行われる検査	講義	
10	尿路の感染症、下部尿路機能障害、尿路の腫瘍性疾患	講義	
11	女性生殖器の構造と機能、婦人科・乳腺化で行われる診察・検査	講義	
12	月経に関する疾患、子宮の疾患	講義	
13	性器の炎症・性感染症、不妊症・不育症	講義	
14	卵巣・卵管の疾患、乳房の疾患	講義	
15	更年期障害、性分化疾患、セクシャリティーに関連する健康課題	講義	

#### 使用教科書・教材・参考書

疾患と看護④血液/アレルギー・膠原病/感染症 メディカ出版  
 疾患と看護⑧腎/泌尿器/内分泌・代謝 メディカ出版  
 疾患と看護⑨女性生殖器 メディカ出版

#### 成績評価の方法

筆記試験100点

#### 備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	病態生理学Ⅲ		担当教員	久保川 利哉 網脇 慎治		
専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	2年次

#### 授業概要

情報の受容の経路の障害と処理機能の障害、からだを支える機能がされることに伴う症状と成り行き、データの示す意味について学ぶ。生活への適応能力の範囲とその態様・程度を把握する基礎知識となる。

#### 授業のねらい

- 1.情報の受容と処理機能の障害の成り立ちとそれに伴う症状と成り行きについて理解する。
- 2.からだの支持と運動機能障害の成り立ちとそれに伴う症状と成り行きについて理解する。

#### 授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	脳・神経の構造と機能、脳・神経疾患の検査	講義	
2	脳血管障害、脳腫瘍	講義	
3	頭部外傷、水頭症、感染性疾患	講義	
4	脊椎・脊髄疾患、神経変性疾患・不随意運動症	講義	
5	認知症、末梢神経疾患、脱髄性疾患、てんかん	講義	
6	筋疾患	講義	
7	目の構造と機能、目の疾患	講義	
8	耳鼻咽喉の構造と機能、耳鼻咽喉の疾患	講義	
9	口腔の構造と機能、歯・口腔の疾患、	講義	
10	皮膚の構造と機能、皮膚の疾患	講義	
11	運動器の構造と機能、整形外科で行われる検査	講義	
12	骨折、脱臼、靭帯損傷	講義	
13	骨粗鬆症、関節炎・腱鞘炎、変形性関節症	講義	
14	大腿骨頭壊死症、脊椎変性疾患	講義	
15	大腿骨頭壊死症、脊椎変性疾患	講義	

#### 使用教科書・教材・参考書

疾患と看護⑤脳・神経 メディカ出版  
 疾患と看護⑥目/耳鼻咽喉/歯・口腔/皮膚 メディカ出版  
 疾患と看護⑦運動器 メディカ出版

#### 成績評価の方法

筆記試験100点

#### 備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	病態生理学IV		担当教員	久保川 利哉 小池 正美		
専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	2年次

#### 授業概要

からだをつくる 栄養の摂取、吸収、代謝、排泄機能が障害されることに伴う症状と成り行き、データの示す意味について学ぶ。また、精神障害のメカニズムを学ぶ

#### 授業のねらい

1. 栄養の摂取・吸収・代謝、排泄機能障害の成り立ちとそれに伴う症状、成り行きについて理解する。
2. 精神機能障害の成り立ちとそれに伴う症状と問題行動、成り行きについて理解する。

#### 授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	消化器の構造と機能、消化器の検査	講義	
2	口腔・歯科・頭頸部の疾患・食道の疾患	講義	
3	胃・十二指腸疾患(1)	講義	
4	胃・十二指腸疾患(2)	講義	
5	小腸・大腸・肛門疾患	講義	
6	肝臓の疾患、胆道系の疾患	講義	
7	膵臓の疾患、腹膜・腹壁・横隔膜の疾患	講義	
8	内分泌・代謝器官の構造と機能、内分泌・代謝内科で行われる検査	講義	
9	視床下部・下垂体疾患、甲状腺疾患(1)	講義	
10	視床下部・下垂体疾患、甲状腺疾患(2)	講義	
11	糖代謝異常	講義	
12	統合失調症(1)	講義	
13	統合失調症(2)	講義	
14	双極性障害(1)	講義	
15	双極性障害(2)	講義	

#### 使用教科書・教材・参考書

疾患と看護③消化器 メディカ出版  
 疾患と看護⑧腎/泌尿器/内分泌・代謝 メディカ出版  
 精神看護学②精神障害と看護の実践 メディカ出版

#### 成績評価の方法

筆記試験100点

#### 備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	病態生理学V		担当教員	片岡 飛鳥		
専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単位数 時間数	1単位 15時間	年次	3年次

#### 授業概要

患者の状態を的確に把握するために臨床推論を用いて、緊急度や重症度の判断を行うことで、患者の状態に合ったタイムリーで的確な看護の提供ができるための基礎能力を養う。

#### 授業のねらい

- 1.急性症状を呈する疾患を学び、緊急を要するか否かを判断する能力の基礎を学ぶ
- 2.問診、フィジカルアセスメントによる臨床推論の基礎を学ぶ

#### 授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	急性呼吸機能障害を呈する患者への迅速判断	講義/演習	
2	急性循環機能障害を呈する患者への迅速判断	講義/演習	
3	急性消化機能障害を呈する患者への迅速判断	講義/演習	
4	脳神経の急性機能障害を呈する患者への迅速判断	講義/演習	
5	生体防御機能障害を呈する患者への迅速判断	講義/演習	
6	臨床場面で遭遇する症状における臨床推論(1)	講義/演習	
7	臨床場面で遭遇する症状における臨床推論(2)	講義/演習	
8	臨床場面で遭遇する症状における臨床推論(3)	講義/演習	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

#### 使用教科書・教材・参考書

なし

#### 成績評価の方法

筆記試験100点

#### 備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	薬理学		担当教員	宮崎 美子		
専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

#### 授業概要

臨床において安全に薬物を投与し、その経過を捉えるための基礎を学ぶ。薬物療法を受ける対象の理解、与薬の技術や服薬指導につなげる。

#### 授業のねらい

- 1.薬の作用機序、有害作用および薬物の管理について理解する。
- 2.服薬指導の実際について理解する。

#### 授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	医薬品総論	講義	
2	感染症と薬	講義	
3	免疫疾患・アレルギー・炎症に使用する薬(1)	講義	
4	免疫疾患・アレルギー・炎症に使用する薬(2)	講義	
5	がん使用する薬	講義	
6	末梢神経に作用する薬	講義	
7	脳・中枢神経疾患に使用する薬	講義	
8	循環器疾患に使用する薬	講義	
9	血液・造血疾患に使用する薬	講義	
10	代謝/内分泌疾患に使用する薬	講義	
11	呼吸器疾患に使用する薬	講義	
12	消化器疾患に使用する薬	講義	
13	泌尿器・生殖器疾患に使用する薬	講義	
14	感覚器疾患に使用する薬	講義	
15	救命救急時に使用する薬	講義	

#### 使用教科書・教材・参考書

疾病の成り立ちと回復の促進②臨床薬理学 メディカ出版

#### 成績評価の方法

筆記試験100点

#### 備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	栄養学		担当教員	西條 奈緒美		
専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

#### 授業概要

食生活は人間の生命活動につながる営みであり、疾病からの回復を促すことを理解し、機能障害に応じた栄養指導の実際につなげる。

#### 授業のねらい

1. ライフステージに応じた栄養について理解する
2. 機能障害に応じた栄養法について理解する。
3. 栄養指導の実際について理解する。

#### 授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	五大栄養素とそのはたらき 糖質の種類	講義	
2	糖質の種類とそのはたらき 糖尿病	講義	
3	脂質と脂肪 脂肪酸	講義	
4	リポタンパク質の種類とはたらき 脂質異常症	講義	
5	タンパク質とその消化	講義	
6	ビタミンの種類と特徴 脂溶性ビタミンのはたらき、欠乏症	講義	
7	水溶性ビタミンのはたらき、欠乏症	講義	
8	ミネラルの特徴 マクロミネラルの種類とはたらき	講義	
9	ミクロミネラルの種類とはたらき	講義	
10	食物繊維のはたらき	講義	
11	日本人の食事摂取基準 エネルギー摂取と栄養素	講義	
12	ライフステージの栄養(乳児期)	講義	
13	ライフステージの栄養(幼児期以降)	講義	
14	臨床栄養	講義	
15	五大栄養素、食事摂取基準、ライフステージの栄養、臨床栄養	講義	

#### 使用教科書・教材・参考書

疾病の成り立ちと回復の促進④臨床栄養学 メディカ出版

#### 成績評価の方法

筆記試験100点

#### 備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	臨床治療論 I		担当教員	片岡 飛鳥		
専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単位数 時間数	1単位 15時間	年次	2年次

授業概要

手術中の身体の管理、手術侵襲と生体反応を理解する。主な術式の特徴について学び周手術期の看護に役立てる。

授業のねらい

- 1.手術中の身体の管理、手術侵襲と生体反応を理解する。
- 2.主な手術の特徴と生じやすい合併症について理解する。

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	全身麻酔における麻酔中の合併症	講義	
2	全身麻酔における術後合併症のメカニズムと管理	講義	
3	開頭術の特徴と術後合併症	講義	
4	開胸術の特徴と術後合併症	講義	
5	開腹術の特徴と術後合併症(1)	講義	
6	開腹術の特徴と術後合併症(2)	講義	
7	開腹術の特徴と術後合併症(3)	講義	
8	内視鏡手術の特徴と術後合併症 カテーテル治療の特徴と術後合併症	講義	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用教科書・教材・参考書

成人看護学④周術期看護 メディカ出版

成績評価の方法

筆記試験100点

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	臨床治療論Ⅱ		担当教員	木元 貴祥		
専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単位数 時間数	1単位 15時間	年次	3年次

授業概要

放射線療法、薬物療法の原理と管理について学ぶ。

授業のねらい

- 1.放射線療法の原理と管理、副作用について理解する。
- 2.薬物療法の原理と管理、副作用について理解する。

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	放射線療法の原理 放射線療法の管理の実際	講義	
2	局所麻酔における合併症のメカニズムと管理	講義	
3	開心術の特徴と術後合併症	講義	
4	薬物療法の原理と管理、副作用(1) 自律神経に作用する薬を用いた薬物療法	講義	
5	薬物療法の原理と管理、副作用(2) 中枢神経に作用する薬	講義	
6	薬物療法の原理と管理、副作用(3) 利尿薬・ジギタリス製剤・RAA系製剤	講義	
7	薬物療法の原理と管理、副作用(4) ステロイド、非ステロイド	講義	
8	薬物療法の原理と管理、副作用(5) 抗血栓薬	講義	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用教科書・教材・参考書

成人看護学④周術期看護 メディカ出版  
 疾病の成り立ちと回復の促進②臨床薬理学 メディカ出版

成績評価の方法

筆記試験100点

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	看護カウンセリング		担当教員	廣瀬 寛子		
専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単位数 時間数	1単位 15時間	年次	2年次

#### 授業概要

カウンセリングはクライアントの信頼関係を成立させ、受容的・共感的姿勢をもってクライアントの悩みや苦痛を知り、ともに解決していく過程である。その本質や方法を学び看護につなげる。

#### 授業のねらい

1. 看護師のためのカウンセリング的姿勢を学ぶ。
2. 看護カウンセリングの機能を理解し、患者・家族・ナースカウンセラーが体験した世界を理解する。

#### 授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	一方通行と双方通行のコミュニケーションについて 看護カウンセリング概論	講義/演習(ゲーム)	
2	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション	講義	
3	集団におけるコミュニケーション(1)	講義 (DVD鑑賞:「12人の優しい日本人」)	
4	集団におけるコミュニケーション(2)	講義	
5	集団におけるコミュニケーション(3)	講義	
6	看護カウンセリングの基本姿勢(1)	講義	
7	看護カウンセリングの基本姿勢(2) 患者に寄り添うために必要な姿勢	講義	
8	終末期から看取り後までの家族遺族へのサポート	講義	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

#### 使用教科書・教材・参考書

廣瀬 寛子 看護カウンセリング 医学書院

#### 成績評価の方法

筆記試験100点

#### 備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	公衆衛生学		担当教員	奥山 和美		
専門基礎分野	教育内容	健康支援と社会保障制度	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	2年次

授業概要

保健行政の基盤となる医療資源管理の考え方を学び、人々の健康の保持増進に寄与する公衆衛生の現状について理解する。

授業のねらい

1. 公衆衛生の考え方を理解する。
2. わが国ならびに他国の公衆衛生の現状について理解する。

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	公衆衛生の理念	講義	
2	健康の指標(1) 人口問題・出生・死亡	講義	
3	健康の指標(2) 死亡原因・死産乳児死亡・健康状態	講義	
4	地域保健	講義	
5	産業保健	講義	
6	健康状態と受療状況	講義	
7	母子保健(1)	講義	
8	母子保健(2)	講義	
9	感染症(1)	講義	
10	感染症(2)	講義	
11	生活習慣予防、健康日本21	講義	
12	生活習慣病	講義	
13	生活環境	講義	
14	難病	講義	
15	国民生活基礎調査 まとめ	講義	

使用教科書・教材・参考書

健康支援と社会保障②公衆衛生 メディカ出版

成績評価の方法

筆記試験100点

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	社会福祉 I		担当教員	工藤 麻希		
専門基礎分野	教育内容	健康支援と社会保障制度	単位数 時間数	1単位 15時間	年次	1年次

#### 授業概要

社会福祉の考え方と制度、及び施策体系について理解する。

#### 授業のねらい

- 1.社会福祉の歴史を知り、現代社会の変化を理解する。
- 2.社会福祉の施策体系について理解する。

#### 授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	社会保障制度と社会福祉	講義	
2	社会福祉の組織について	講義	
3	現代社会の変化について	講義	
4	社会保障・社会福祉の動向 ・保健医療の動向 ・社会福祉サービスの動向	講義	
5	社会福祉の法制度の歴史的展開 ・社会福祉サービスの内容とサービス提供のしくみ	講義	
6	社会福祉法と福祉六法 ・社会福祉法 ・福祉六法	講義	
7	臨床場面で必要な他職種との連携 ・社会保障	講義	
8	臨床場面で必要な他職種との連携 ・社会福祉と看護の関連	講義	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

#### 使用教科書・教材・参考書

健康支援と社会保障③社会福祉と社会保障 メディカ出版

#### 成績評価の方法

筆記試験100点

#### 備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	社会福祉Ⅱ		担当教員	工藤 麻希		
専門基礎分野	教育内容	健康支援と社会保障制度	単位数 時間数	1単位 15時間	年次	2年次

授業概要

わが国の社会保障制度について学ぶ。人々の生活を支えるしくみを知り、看護の対象となる人々の社会背景を理解する。

授業のねらい

- 1.社会福祉の各分野について、人々の生活を支える仕組みを知り、その実態と問題に対してどのような施策が展開されているか学ぶ。
- 2.医療現場、地域社会などの多様な現場で展開される社会福祉実践において、援助が必要な場面とその援助方法を理解する。

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	医療保障 ・医療保険の種類と給付内容	講義	
2	医療保障 ・保険料・診療報酬	講義	
3	所得保障 ・年金保険制度	講義	
4	所得保障 ・年金、社会手当、労働保険	講義	
5	公的扶助 ・生活保護の原理、原則・扶助の種類と手続き	講義	
6	介護保険 ・制度の概要・サービスの検討	講義	
7	介護保険 ・院内外の連携・介護保険サービス給付・制度の活用	講義	
8	社会福祉の分野とサービス	講義	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用教科書・教材・参考書

健康支援と社会保障③社会福祉と社会保障 メディカ出版

成績評価の方法

筆記試験100点

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	関係法規		担当教員	山路りえ子		
専門基礎分野	教育内容	健康支援と社会保障制度	単位数 時間数	1単位 15時間	年次	1年次

#### 授業概要

対象の健康を守り、与えられた職責を遂行するにあたり必要な看護関係法規を理解する。

#### 授業のねらい

- 1.保健、医療、福祉における行政の役割を理解する。
- 2.法の概念を理解する。
- 3.看護関係法規を理解する。

#### 授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	法律総論 保健・医療・福祉における行政の役割	講義	
2	保健師看護師助産師法	講義	
3	医療法・薬事法・医療過誤	講義	
4	環境衛生法	講義	
5	保健衛生法	講義	
6	社会保障法	講義	
7	社会保険関係法規(1)	講義	
8	社会福祉関係法規(2)	講義	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

#### 使用教科書・教材・参考書

健康支援と社会保障④看護をめぐる法と制度 メディカ出版

#### 成績評価の方法

筆記試験100点

#### 備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	保健医療論		担当教員	小坂 宣靖		
専門基礎分野	教育内容	健康支援と社会保障制度	単位数 時間数	1単位 15時間	年次	3年次

#### 授業概要

医学・医療の歩みを通じ、これからの医学、医療の方向を理解し、看護の果たすべき役割について理解を深める。

#### 授業のねらい

- 1.現在の医学、医療がどのように発展してきたのかを理解する。
- 2.現代の医学と医療について理解する。
- 3.現代医療の諸問題について理解する。
- 4.医療に携わる看護師としてのあり方を考える。

#### 授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	医学・医療のあゆみ	講義	
2	現代医療の諸問題(1)トピックスから考える	講義	
3	現代医療の諸問題(2)トピックスから考える	講義	
4	性生殖医療と課題	講義	
5	小児医療の課題	講義	
6	高齢医療と課題	講義	
7	障害者の医療と課題	講義	
8	在宅医療と課題	講義	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

#### 使用教科書・教材・参考書

なし

#### 成績評価の方法

筆記試験100点

#### 備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	リハビリテーション論		担当教員	小池 直美 上田 薫		
専門基礎分野	教育内容	健康支援と社会保障制度	単位数 時間数	1単位 15時間	年次	3年次

#### 授業概要

退院後の生活の質を高めるための支援の方法を学ぶ。機能障害に応じて環境を整える方法を考える機会となる。自助具や社会資源の活用法を考えていくための基礎となる。

#### 授業のねらい

- 1.リハビリテーションの実際を学び、生活の質を高めるための支援について考える。
- 2.機能障害に応じた社会資源の活用を理解する。

#### 授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	リハビリテーション ストーマケア	講義	
2	リハビリテーション 褥瘡	演習	
3	装具・車椅子・杖・自助具(1)	講義/演習	
4	装具・車椅子・杖・自助具(2)	講義/演習	
5	言語障害のリハビリテーション(言語療法)	講義/演習	
6	嚥下障害へのアプローチ	講義/演習	
7	褥瘡ケアと介護用品	講義(DVD)	
8	ストーマケアと社会資源の活用	講義	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

#### 使用教科書・教材・参考書

#### 講師作成資料

#### 成績評価の方法

筆記試験100点

#### 備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

# 専 門 分 野

## 68 単位 (2115 時間)

<ねらい>

- 人間としてよりよく生きる（生活する）ことの意味を認識し、安全・安楽・自立をふまえた基本技術を習得する。
- 状況を踏まえた看護技術の適応方法を学ぶ。
- 人間が誕生し成長・発達を遂げ人生を全うする過程における特徴と健康な生活について学ぶ。
- 各発達段階において多様な健康課題を有する対象に、科学的根拠に基づき看護実践ができる基礎的能力を養う。
- さまざまな健康水準にあるひとと取り巻く人々へ対する看護を学ぶ。
- 対象に共感しながら寄り添う姿勢を養う。
- 地域で生活する対象の多様なニーズに対応する在宅ケアシステムにおける看護のあり方を学ぶ。
- 療養者が望む生き方、暮らし方を支え、生活の質の維持・向上をめざす。
- 家族の発達課題を達成するためのセルフケア機能を支援する方法を学ぶ。
- 看護管理の原則を理解し、よりよい看護サービスとは何かを考える。
- 災害時における「人間」と「生活」を視点にした看護を学ぶ。
- 看護研究の基礎を学び、自己の看護観を養う。

<構 成>

教育内容	科 目	単位	時間数
基礎看護学	看護学概論	1	30
	看護の基本となる技術	1	15
	フィジカルアセスメント	1	30
	生活を整える技術Ⅰ	1	30
	生活を整える技術Ⅱ	1	30
	生活を整える技術Ⅲ	1	30
	看護の思考と表現	1	15
	回復を促す技術Ⅰ	1	30
	回復を促す技術Ⅱ	1	15
	臨床看護総論Ⅰ	1	30
	臨床看護総論Ⅱ	1	30
	臨床看護推論	1 / 12	15 / 300
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論	1
地域の環境		1	15
地域の生活		1	15
地域で療養する人への生活支援		1	30
地域で療養する人への医療支援		1	30
地域で療養する人への継続看護		1 / 6	15 / 135

成人看護学	成人看護学概論	1	30
	周術期の看護	1	15
	健康危機状態から回復を促す看護	1	30
	生活の再構築を支える看護	1	30
	セルフマネジメントを支える看護	1	30
	生と死を支える看護	1	30
	臨床判断と看護の実践	1/7	15/180
老年看護学	老年看護学概論	1	30
	日常生活に支援を必要とする高齢者の看護	1	30
	健康障害をもつ高齢者の看護	1	30
	高齢者へのきれめのない看護	1/4	15/105
小児看護学	小児看護学概論	1	30
	子どもの日常生活援助	1	15
	小児臨床看護論	1	30
	健康障害のある子どもの看護	1/4	30/105
母性看護学	母性看護学概論	1	30
	妊婦と産婦の看護	1	30
	褥婦と新生児の看護	1	30
	ウィメンズヘルス	1/4	15/105
精神看護学	精神看護学概論	1	30
	精神の健康を守る看護	1	15
	精神に健康問題のある対象への看護	1	30
	精神疾患のある対象の地域生活	1/4	30/105
看護の統合と実践	看護研究の基礎	1	15
	看護マネジメント	1	30
	災害と看護	1	30
	看護の統合と実践	1/4	30/105
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	30
	基礎看護学実習Ⅱ	2	60
	地域・在宅看護論実習	2	90
	成人看護学実習Ⅰ	2	90
	成人看護学実習Ⅱ	2	90
	成人看護学実習Ⅲ	3	135
	老年看護学実習Ⅰ	1	30
	老年看護学実習Ⅱ	2	90
	小児看護学実習	2	90
	母性看護学実習	2	90
	精神看護学実習	2	90
統合実習	2/23	90/975	
合計		68	2115

# 基礎看護学

## 12 単位 (300 時間)

### <ねらい>

基礎看護学は看護学すべての基盤となる。看護を体系的に捉え、看護の視点を理解するために、人間・健康・環境・看護の主要概念について学ぶ。看護とは何か、看護職が果たす役割について考える機会となる。対象を生活者として4側面(身体的・精神的・社会的・霊的)から全人的に理解する。

人間としてよりよく生きる(生活する)ことの意味を認識し、安全・安楽・自立をふまえた基本技術を習得する。看護を実践するための「看護の基本となる技術」「生活を整える技術」「回復を促す技術」そして、「臨床看護総論」では状況を踏まえた看護技術の適応方法を学び、「臨床看護推論」では、臨床判断を行うために必要な思考と、看護師の倫理観・価値観が及ぼす影響を学ぶ。さらに、臨地実習を通して看護を探究する姿勢を培う。

専門職業人として、対象一人ひとりの生命の尊厳と人格を尊重する態度を養い、人間関係形成をはかる素地をつくる。

### <目的>

対象となる人間を理解し、看護を実践できる基礎能力を養う。

### <目標>

1. 看護の対象と役割について理解する。
2. 看護の基本となる技術を習得する。
3. 対象の生活を整える技術を習得する。
4. 対象の健康の回復を促す技術を習得する。
5. 看護診断を用いて対象へ個別的な看護を展開する方法を理解する。
6. 臨床判断を行うために必要な思考を理解する。
7. 対象の「生命の尊厳」と「人格を尊重できる態度」を養い、責任遂行のための倫理的行動がとれる。
8. 自己の看護観を養う。

### <構成>

教育内容	科目	単位	時間数
基礎看護学	看護学概論	1	30
	看護の基本となる技術	1	15
	フィジカルアセスメント	1	30
	生活を整える技術Ⅰ	1	30
	生活を整える技術Ⅱ	1	30
	生活を整える技術Ⅲ	1	30
	看護の思考と表現	1	15
	回復を促す技術Ⅰ	1	30
	回復を促す技術Ⅱ	1	15
	臨床看護総論Ⅰ	1	30
	臨床看護総論Ⅱ	1	30
	臨床看護推論	1	15
	合計		12

科目名	看護学概論		担当教員	多田 真理子 磯野 記子		
専門分野	教育内容	基礎看護学	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
病院の機能を理解したうえで、専門家としての責務や役割における責務を遂行した。チーム医療の中で、看護師として対象を理解し看護実践を行った。看護研究を通して看護の質の向上を考えた。	実務経験を活かし、看護とは何か、看護師の役割や責務について学生と討議する。経験を教材にして、中範囲理論を教授し、倫理的問題を提示して学生自身が主体的に学ぶ授業を行う。

授業概要・授業のねらい

- 1.看護の基本的姿勢や考え方を明らかにする。
- 2.看護師という職業を取り巻く環境条件や社会的特徴を考える。

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	看護における基本的概念	講義	
2	看護の変遷と現代社会における看護のあり方	講義	
3	看護の対象	講義	
4	看護実践の場(1)	講義	
5	看護実践の場(2)	その他(施設見学)	
6	健康と病気の捉え方	講義	
7	健康に影響する要因	講義	
8	ライフサイクルと健康	講義	
9	看護の理論と実践	講義	
10	看護における倫理と価値	講義	
11	看護における法的側面	演習	
12	保健・医療・福祉システム	講義	
13	医療安全の取り組み	講義	
14	TMGと看護	演習	
15	学校理念と看護	演習	

使用教科書・教材・参考書

基礎看護学①看護学概論 メディカ出版

成績評価の方法

筆記試験70点 レポート・成果物30点

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	看護の基本となる技術		担当教員	小林 恭子 八反田 希望		
専門分野	教育内容	基礎看護学	単位数 時間数	1単位 15時間	年次	1年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
様々な疾患、病気の患者に対する看護を経験。看護の基本技術をもとに、優先度をふまえて対象に関わり看護実践をしてきた経験がある。	実務経験を活かし、健康障害をもった患者と関わるために必要な技術、考え方について実践的な内容を含めた講義と技術指導を行っている。

授業概要・授業のねらい

- 1.看護技術を実践する基本的姿勢や考え方を理解する。
- 2.看護実践の基本となる技術を習得する。

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	看護技術の特徴と範囲	講義	
2	ボディメカニクスと看護援助	講義	
3	スタンダードプリコーション	講義/実技演習	
4	バイタルサインの基礎知識とアセスメント	講義	
5	体温・脈拍・呼吸・血圧・酸素飽和度の測定方法と報告方法	講義	
6	血圧測定	実技演習	
7	座位・臥床患者へのバイタルサイン測定	実技演習	
8	血圧測定測定の技術試験	実技試験	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用教科書・教材・参考書

基礎看護学②基礎看護技術 I メディカ出版  
基礎・臨床看護技術 医学書院

成績評価の方法

筆記試験70点 技術試験30点

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	フィジカルアセスメント		担当教員	丸山 修義 小林 恭子		
専門分野	教育内容	基礎看護学	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
内科・外科系病棟においてあらゆる年齢層・疾患に対する看護を経験。フィジカルアセスメントを通して患者の状態を把握し看護を実践してきた。	実務経験を活かし、対象の生命徴候を捉え、どのように観察・アセスメントし看護につなげるのかを実践的な事例を通し講義と実技指導を行っている。

授業概要・授業のねらい

1.フィジカルアセスメントに必要な知識と技術を習得する。

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント	講義	
2	ヘルスアセスメントに必要な技術(1)	講義	
3	ヘルスアセスメントに必要な技術(2)	講義/演習	
4	フィジカルイクザミネーション(1)基本手技	講義/演習	
5	筋・骨格系のフィジカルイクザミネーション	講義/演習	
6	筋・骨格系患者へのフィジカルアセスメントの実際	実技演習	
7	神経系・感覚器系のフィジカルイクザミネーション	講義/演習	
8	神経系・感覚器系患者へのフィジカルアセスメントの実際	実技演習	
9	消化器系のフィジカルイクザミネーション	講義/演習	
10	消化器系患者へのフィジカルアセスメントの実際	実技演習	
11	呼吸器系のフィジカルイクザミネーション	講義	
12	呼吸器患者へのフィジカルアセスメントの実際	実技演習	
13	循環器系のフィジカルイクザミネーション	講義	
14	循環器系患者へのフィジカルアセスメントの実際	実技演習	
15	フィジカルアセスメントの統合的な活用	講義	

使用教科書・教材・参考書

基礎看護学②基礎看護技術 I メディカ出版  
基礎・臨床看護技術 医学書院

成績評価の方法

筆記試験100点(中間試験50点、終講試験50点)

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	生活を整える技術 I		担当教員	八反田 希望 丸山 修義		
専門分野	教育内容	基礎看護学	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
内科・外科系病棟においてあらゆる年齢層の対象に対し看護を経験。その中で、対象に合わせた日常生活を整える看護を実践してきた。	実務経験を活かし、健康を促進するために必要な日常生活行動の援助技術について講義を行い、実践的な演習を通して援助技術を習得できるよう、指導を行っている。

授業概要・授業のねらい

1.対象の生活を整えるために必要な環境・及び活動・休息に関する技術を習得する。
---

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	環境の意義、病床環境	講義	
2	療養環境のアセスメント、病床を整える援助	講義	
3	病床を整える援助(1)環境整備	実技演習	
4	病床を整える援助(2)シーツ交換	実技演習	
5	病床を整える援助(3)包布交換	実技演習	
6	臥床患者の環境整備	実技演習	
7	事例患者における環境整備	実技演習	
8	人間にとっての活動・運動の意義	講義/演習	
9	体位の種類と身体への影響	講義/演習	
10	活動・運動を支援する援助の実際(1)	講義/実技演習	
11	活動・運動を支援する援助の実際(2)	講義/実技演習	
12	活動・運動を支援する援助の実際(3)	講義/実技演習	
13	安楽な姿勢・体位の保持	実技演習	
14	人間にとっての休息・睡眠の意義 休息・睡眠を促す援助の実際	講義/演習	
15	環境および活動・休息における統合的な活用	講義/演習	

使用教科書・教材・参考書

基礎看護学②基礎看護技術 I メディカ出版 基礎・臨床看護技術 医学書院
---

成績評価の方法

筆記試験100点
----------

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。
----------------------------

科目名	生活を整える技術Ⅱ		担当教員	阿保 規子 星野 幸子		
専門分野	教育内容	基礎看護学	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
食事、排泄などの生活援助を実践した病棟経験がある。小児から高齢者、終末期の患者まで、様々な疾患を抱えた患者一人一人に合わせた手法を用いて看護を実践してきた。	実務経験を活かして実践的な事例を含めた講義と技術指導を行い、対象者の日常生活における未充足への基本的援助技術を習得できるようにする。

授業概要・授業のねらい

1.対象の生活を整えるために必要な食事及び排泄に関する技術を習得する。

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	食事・栄養の意義とメカニズム	講義	
2	栄養のアセスメント	講義	
3	食事摂取の方法	講義	
4	食事摂取の援助の実際	実技演習	
5	摂取方法・形態の異なる食事	講義	
6	口腔ケアの意義と方法	講義/演習	
7	口腔ケアの実際	実技演習	
8	排泄の意義とメカニズム、排泄のアセスメント	講義	
9	自然排尿および自然排便の援助の方法(トイレ、ポータブルトイレ)	講義	
10	自然排尿および自然排便の援助の方法(尿器、便器、おむつ)	講義/演習	
11	援助の実際(1)尿器、便器	実技演習	
12	援助の実際(2)おむつ交換	実技演習	
13	床上での陰部洗浄	講義	
14	援助の実際(3)陰部洗浄	実技演習	
15	栄養および排泄における統合的な活用	講義	

使用教科書・教材・参考書

基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ メディカ出版  
基礎・臨床看護技術 医学書院

成績評価の方法

筆記試験100点

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	生活を整える技術Ⅲ		担当教員	土屋 早紀 小林 恭子		
専門分野	教育内容	基礎看護学	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
内科・外科系病棟においてあらゆる年齢層の対象に対し看護を経験。その中で対象に合わせた、日常生活を整える看護を実践してきた。	実務経験を活かし、健康を促進するために必要な清潔の援助技術について講義を行い、実践的な演習を通して援助技術を習得できるよう、指導を行っている。

授業概要・授業のねらい

1.対象の生活を整えるために必要な清潔及び衣生活に関する技術を習得する。

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	清潔の援助の効果と方法選択の視点	講義/演習	
2	衣生活への援助	実技演習	
3	全身清拭の基礎的技術(1)	実技演習	
4	全身清拭の基礎的技術(2)	実技演習	
5	全身清拭の一連の実施(1)	実技演習	
6	全身清拭の一連の実施(2)	実技演習	
7	事例に応じた全身清拭	実技演習	
8	全身清拭の一連の実施(3)	実技演習	
9	床上での部分浴の実際	講義	
10	患者のADLに適した洗髪の実際(1)	実技演習	
11	患者のADLに適した洗髪の実際(2)	実技演習	
12	患者のADLに適した手浴の実際	実技演習	
13	患者のADLに適した足浴の実際	実技演習	
14	患者のADLに適した部分浴の実際	実技演習	
15	清潔および衣生活における統合的な活用	講義	

使用教科書・教材・参考書

基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ メディカ出版  
基礎・臨床看護技術 医学書院

成績評価の方法

筆記試験100点

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	看護の思考と表現		担当教員	八反田 希望		
専門分野	教育内容	基礎看護学	単位数 時間数	1単位 15時間	年次	1年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
様々な疾患、病期の患者に対する看護を経験。看護の基本技術をもとに、優先度をふまえて対象に関わり看護実践をしてきた経験がある。	実務経験を活かし、看護師としての実践を行うために必要な思考や倫理的判断および表現方法について実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。

授業概要・授業のねらい

- 1.看護過程の基盤となる考え方を理解する。
- 2.看護記録の基本となる知識・技術を習得する。

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	問題解決過程とクリティカルシンキング リフレクション	講義	
2	倫理的配慮と価値判断 看護記録の目的と記載・管理における留意点	講義	
3	看護援助時の表現方法(1) カンファレンスの意義・目的	講義/演習(GW)	
4	実習記録の実際(1)	講義/演習(GW)	
5	実習記録の実際(2)	講義	
6	実習記録の実際(3)	講義	
7	実習記録の実際(4)	講義	
8	事例展開への応用	講義	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用教科書・教材・参考書

基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ メディカ出版  
 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ メディカ出版  
 基礎・臨床看護技術 医学書院

成績評価の方法

筆記試験 40点、課題60点

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	回復を促す技術 I		担当教員	土屋 早紀 星野 幸子		
専門分野	教育内容	基礎看護学	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
内科・外科系病棟において、周手術期から回復期、終末期まで様々な段階のあらゆる年齢層を対象に看護を経験。検査・治療を受ける対象への看護を実践してきた。	実務経験を活かし、検査・治療を受ける対象に必要な看護について、講義と演習を展開し指導を行っている。

授業概要・授業のねらい

1.対象の回復を促すために必要な治療時の基本的技術を習得する。

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	薬物療法の目的・与薬のための基礎知識	講義	
2	与薬のための援助技術	実技演習	
3	感染を成立させる要素と成立過程・感染経路別予防策	講義	
4	無菌操作/ガウンテクニック/感染性廃棄物の取り扱い	実技演習	
5	創傷の観察	講義	
6	創洗浄・創保護・包帯法(1)	実技演習	
7	創洗浄・創保護・包帯法(2)	実技演習	
8	臨床検査の目的と看護師の役割	講義	
9	臨床検査の基礎知識(1) 検体検査	講義/演習	
10	臨床検査の基礎知識(2) 血液検査	講義/演習	
11	静脈血採血	実技演習	
12	臨床検査の基礎知識(3) 生体検査(1)	講義	
13	臨床検査の基礎知識(4) 生体検査(2)	講義	
14	心電図検査と身体計測	実技演習	
15	検査・治療を受ける患者の看護における統合的な活用	講義	

使用教科書・教材・参考書

基礎看護学②基礎看護技術 I メディカ出版  
基礎・臨床看護技術 医学書院

成績評価の方法

筆記試験100点(中間試験50点、終講試験50点)

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	回復を促す技術Ⅱ		担当教員	土屋 早紀		
専門分野	教育内容	基礎看護学	単位数 時間数	1単位 15時間	年次	1年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
内科・外科系病棟において、周手術期から回復期、終末期まで様々な対象や疾患を問わず診療の補助を経験。基本に基づき適切な方法で看護を実践してきた。	実務経験を活かし、実践的な事例を含めた講義と技術指導を行い、基本に沿った援助技術を習得できるようにする。

授業概要・授業のねらい

1.対象の回復を促すために必要な治療時の基本的技術を習得する。

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	点滴静脈内注射(輸液療法)、静脈内注射	講義	
2	輸液療法の実際と看護(1) 静脈内注射、側管注(ワンショット)、三方活栓の取り扱い	実技演習	
3	輸液療法の実際と看護(2) 点滴静脈内注射(ミキシング・プライミング、滴下調整、観察)	実技演習	
4	輸血の基礎知識と看護	講義	
5	皮下注射/皮内注射/筋肉内注射	講義	
6	注射準備 (アンプル/バイアルからの薬液の吸い上げ)	実技演習	
7	皮下注射/筋肉内注射の実際と看護	実技演習	
8	輸液療法・注射における統合的な活用	講義	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用教科書・教材・参考書

基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ メディカ出版  
基礎・臨床看護技術 医学書院

成績評価の方法

筆記試験100点

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	臨床看護総論 I		担当教員	阿保 規子 星野 幸子		
専門分野	教育内容	基礎看護学	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
急性期～慢性期病棟においてさまざまな疾患やあらゆる年齢層の患者に対する看護を経験。アセスメントから主要症状に対する早期発見と、患者のニーズを捉えた看護を実践してきた。	実務経験を活かし、さまざまな機能障害をもった患者のアセスメントの視点とその看護について、臨床での事例を用い実践的な内容を含めた講義と技術指導を行っている。

授業概要・授業のねらい

<p>1.主要症状を示す対象の看護を理解する。 2.看護的な視点で対象を捉え援助を実践する。</p>
--

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	体温調節機能に異常をきたした人への援助	講義/演習	
2	褥法を用いた症状緩和の援助	実技演習	
3	安全に関連する症状を示す対象者への看護	講義/演習	
4	安全や生体防御機能に関する症状を示す対象への看護	講義/演習	
5	浮腫がある人への症状緩和の援助	講義/演習	
6	脱水の予防と症状緩和の援助	講義/演習	
7	循環障害のある人への看護	講義/演習	
8	排便障害のある人への看護(1)	講義/演習	
9	排便障害のある人への看護(2)浣腸	実技演習	
10	排尿障害のある人への看護(1)導尿	講義/演習	
11	排尿障害のある人への看護(2)膀胱留置カテーテル	実技演習	
12	呼吸困難にある人への看護	講義/演習	
13	呼吸困難にある人への看護の実際	講義/演習	
14	酸素療法中の人の移動/痰の排出を促す援助の実際 酸素療法/吸入/吸引	実技演習	
15	さまざまな機能障害をもった患者のアセスメントと看護	講義	

使用教科書・教材・参考書

<p>基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ メディカ出版 基礎看護学⑤臨床看護総論 メディカ出版 基礎・臨床看護技術 医学書院</p>
--

成績評価の方法

筆記試験100点
----------

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。
----------------------------

科目名	臨床看護総論Ⅱ		担当教員	小林 恭子 八反田 希望 丸山 修義 阿保 規子		
専門分野	教育内容	基礎看護学	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
内科・外科病棟において学童期～老年期にあたる様々な対象の看護を経験。その中で対象に合った看護展開を行い実践してきた。	実務経験を活かし、対象の健康障害をアセスメントし、実施・評価する過程について実践的な事例を含めた講義をおこなっている。

授業概要・授業のねらい

- 1.看護における問題解決過程と意思決定過程を理解する。
- 2.看護的な視点で対象を捉え援助を考える。

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	問題解決とは/情報収集の方法(目的・系統的情報収集)	講義	
2	情報収集の方法の視点(1):NANDA- I 1～4領域	講義	
3	情報収集の方法の視点(2):NANDA- I 5～10領域	講義	
4	情報収集の方法の視点(3):NANDA- I 11～13領域	講義	
5	情報収集の実際	実技演習	
6	情報の整理/アセスメント(1)	講義	
7	情報の整理/アセスメント(2)	講義/演習(GW)	
8	分類表	講義	
9	仮診断リスト、看護診断の確定	講義	
10	分類表/仮診断リスト/看護診断の確定	講義/演習(GW)	
11	看護計画立案	講義	
12	1日の実習記録の記載	講義/演習(GW)	
13	看護の実施	実技演習	
14	評価・修正	講義/演習(GW)	
15	事例展開への応用	講義	

使用教科書・教材・参考書

基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ メディカ出版  
NEW実践！看護診断を導く情報収集・アセスメント Gakken  
NANDA- I 看護診断2024-2026 医学書院

成績評価の方法

筆記試験40点 課題60点

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	臨床看護推論		担当教員	丸山 修義		
専門分野	教育内容	基礎看護学	単位数 時間数	1単位 15時間	年次	1年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
急性期～慢性期病棟においてさまざまな疾患やあらゆる年齢層の患者に対する看護を経験。アセスメントから主要症状に対する早期発見と、患者のニーズを捉えた看護を実践してきた。	実務経験を活かし、対象の健康問題に対し、その場に合わせたアセスメントを行い、実施・評価する過程について実践的な事例を含めた講義をおこなっている。

授業概要・授業のねらい

1.健康問題に対し、臨床判断を行うために必要な思考を習得する。

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	臨床推論とは	講義	
2	看護師に求められる分析的・論理的・省察的思考	講義	
3	シミュレーション学習(1)～事例①～ *事例の提示、ディスカッション	講義/演習	
4	シミュレーション学習(1)～事例①～ *実践、振り返り	講義/演習	
5	シミュレーション学習(2)～事例②～ *事例の提示、ディスカッション	講義/演習	
6	シミュレーション学習(2)～事例②～ *実践、振り返り	講義/演習	
7	リフレクションの実践	講義/演習	
8	事例展開への応用	講義	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用教科書・教材・参考書

配布資料

成績評価の方法

筆記試験60点 課題40点

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

# 地域・在宅看護論

## 6 単位（135 時間）

### <ねらい>

地域・在宅看護論では、看護の対象を療養者と家族・介護者を含めた「地域で生活する人々」であると捉える。そのため在宅看護にとどまらず、「地域で生活する人々」ということで地域も含めた理解が必要である。

地域・人々の暮らしと地域共生社会について理解した上で、そこで療養する対象や家族・介護者への支援方法を考える機会とする。また自助や互助、さらには共助をより効果的にするための多職種連携・協働を学ぶ。

### <目的>

地域で生活する人々を看護の対象として、健康や暮らしを継続的に支援するための基礎的能力を養う。

### <目標>

1. 暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解する。
2. 地域・在宅看護論の対象と看護の基盤となる概念を理解する。
3. 地域で生活する人々と、その家族・介護者の看護について理解する。
4. 地域における看護師の役割について考え、自己の看護観を深める。

### <構成>

教育内容	科目	単位	時間数
地域・在宅 看護論	地域・在宅看護概論	1	30
	地域の環境	1	15
	地域の生活	1	15
	地域で療養する人への生活支援	1	30
	地域で療養する人への医療支援	1	30
	地域で療養する人への継続看護	1	15
合計		6	135

科目名	地域・在宅看護概論		担当教員	品田 裕子		
専門分野	教育内容	地域・在宅看護論	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
神経内科・形成外科混合病棟や救急外来での看護を経験。現在は、訪問看護ステーションで在宅医療の支援を実践している。	訪問看護ステーションで多職種連携を行い、利用者やその家族との関わりから、地域医療を支える制度などを関連させて授業や演習を行う。

授業概要・授業のねらい

1.地域・在宅看護論の対象者や看護の基盤となる概念を理解する。

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	在宅看護の歴史	講義	
2	地域・在宅看護論の対象者	講義	
3	看護が提供される多様な場	講義	
4	地域・在宅看護論に関連する法と制度と施策(1) 医療保険、介護保険、訪問看護に関する法と制度	講義	
5	地域・在宅看護論に関連する法と制度と施策(2) 権利保障に関する法と施策、各保険・障害者等に関する法と施策	講義	
6	健康と暮らしを支える看護(1) 地域包括ケアシステム、地域共生社会	講義	
7	健康と暮らしを支える看護(2) 自助・互助・共助・公助の意義と役割	講義	
8	健康と暮らしを支える看護(3) 多職種連携・協働の意義と方法	講義	
9	健康と暮らしを支える看護(4) 社会資源の活用	講義/演習	
10	健康と暮らしを支える看護(5) 社会資源の活用の実際	演習(発表)	
11	地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメント(1) ケアマネジメントの必要性	講義	
12	地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメント(2) 自己決定と価値観	講義	
13	地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメント(3) ケアプラン作成	講義/演習	
14	地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメント(4) ケアプラン作成の実際	演習	
15	地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメント(5)	演習(発表)	

使用教科書・教材・参考書

地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア メディカ出版

成績評価の方法

筆記試験100点

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	地域の環境		担当教員	正武家 由美子		
専門分野	教育内容	地域・在宅看護論	単位数 時間数	1単位 15時間	年次	1年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
救急や病棟において、急性期から終末期までのあらゆる年齢層の患者と家族に対する看護を実践した経験がある。	実務経験から習得した知識を使い、地域で生活する対象の生活の様子、抱える課題・生活の困難についてイメージ化を図り、授業展開する。

授業概要・授業のねらい

1. 地域の特徴(歴史・文化・地形・制度・人口・産業・医療・福祉など)を理解する。
2. アセスメントや学びを共有することで、様々な生活者の生活環境について理解する。

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	地域・生活環境とは	講義	
2	地域調査について	講義/演習	
3	身近な地域・生活環境の概要	演習(調査準備)	
4	地域・生活環境の実際(1)	演習(フィールドワーク)	
5	地域・生活環境の実際(2)	演習(フィールドワーク)	
6	地域・生活環境の実際(3)	演習(発表準備)	
7	地域・生活環境の実際(4)	演習(発表)	
8	地域・生活環境の実際(5)	演習(発表)	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用教科書・教材・参考書

地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア メディカ出版  
 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 I 医学書院

成績評価の方法

筆記試験70点 フィールドワーク30点

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	地域の生活		担当教員	品田 裕子		
専門分野	教育内容	地域・在宅看護論	単位数 時間数	1単位 15時間	年次	1年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
急性期病棟での看護、発展途上国で外来・病棟マネジメントを経験。訪問看護ステーションでは予防的支援、医療依存度の高い療養者や在宅での看取り看護、また家族への支援を実践した。	様々な環境にある対象の価値観や背景を考慮し、疾患だけでなく全体を把握した看護ができるように、実務経験を活かし事例を交えながら授業を行う。

授業概要・授業のねらい

<ol style="list-style-type: none"> <li>1、人の暮らしにはどのような要素があるかを理解する。</li> <li>2、成長発達段階により生じるライフイベントと暮らしについて理解する。</li> <li>3、人と人とが支え合って生きることについて考え、理解する。</li> </ol>
---

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	人の暮らしで営まれる生活行為 生活を営むための衣食住・清潔などの家事	講義	
2	人の暮らしで営まれる生活行為 生活を営むための社会環境・住環境・経済環境・労働	講義	
3	成長発達段階による生活の特徴(1) 小児や青年期の家族を持つ生活	講義/演習	
4	成長発達段階による生活の特徴(2) 老年期の家族を持つ生活	講義/演習	
5	成長発達段階による生活の特徴(3) フィールドワーク・インタビュー準備	演習	
6	成長発達段階による生活の特徴(4) 生活の喜び・大変さ・工夫等生活の様子的一端を知る	演習	
7	地域の人の暮らしぶり(1) 成長発達段階を踏まえた生活の様子・特徴	演習	
8	地域の人の暮らしぶり(2) 家族や地域での支え合い	演習(発表・まとめ)	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用教科書・教材・参考書

地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア メディカ出版 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 I 医学書院
--

成績評価の方法

筆記試験100点
----------

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。
----------------------------

科目名	地域で療養する人への生活支援		担当教員	正武家 由美子		
専門分野	教育内容	地域・在宅看護論	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	2年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
救急や病棟において、急性期から終末期までのあらゆる年齢層の患者と家族に対する看護を実践した経験がある。	実務経験から習得した知識を使い、地域で生活する対象の生活の様子、抱える課題・生活の困難についてイメージ化を図り、授業展開する。

授業概要・授業のねらい

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域で暮らす健康課題のある人々の生活の実際について学ぶ。</li> <li>2. 障がいを持って暮らす人の生活の実際を知る。</li> <li>3. 障がいを抱えている人の暮らしの工夫について考える。</li> <li>4. 介護者と家族の生活の実際を学ぶ。</li> </ol>
--

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	地域で暮らすあらゆる健康課題のある人々とは 地域で暮らす人、暮らしの場	講義	
2	療養者としての暮らし(1)	講義	
3	療養者としての暮らし(2)	講義	
4	障がいのある人の生活の実際 高見さんの生活	講義	
5	障がいのある小児の生活の実際	講義	
6	障がいのある精神科患者の生活の実際	講義	
7	高齢となり生活のし難さのある人の生活の実際 独居や老老介護	講義	
8	認知症のある人の生活の実際	講義	
9	死を迎える人の生活の実際	講義	
10	障がいを抱えている人の暮らしの工夫(1) すまいる館での学習	講義(施設見学)	
11	障がいを抱えている人の暮らしの工夫(2) 障害と生活を想定した資源の使用法	演習	
12	障がいを抱えている人の暮らしの工夫(3) 障害と生活を想定した資源の使用法	演習(発表)	
13	介護をする人とは 家族構成員の役割と若年介護者	講義	
14	家族との生活の実際 家族からの支援と生活の実際	講義	
15	生活のし難さや障がいを抱えている人の地域で暮らす意義	演習(まとめ)	

使用教科書・教材・参考書

地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア メディカ出版 地域・在宅看護論②地域療養を支える技術 メディカ出版 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 I 医学書院	地
--	---

成績評価の方法

筆記試験100点
----------

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。
----------------------------

科目名	地域で療養する人への医療支援		担当教員	馬淵 由美子 品田 裕子		
専門分野	教育内容	地域・在宅看護論	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	2年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
急性期病棟での看護、発展途上国で外来・病棟マネジメントを経験。訪問看護ステーションでは予防的支援、医療依存度の高い療養者や在宅での看取り看護、また家族への支援を実践した。	様々な環境にある対象の価値観や背景を考慮し、疾患だけでなく全体を把握した看護ができるように、実務経験を活かし事例を交えながら授業を行う。

授業概要・授業のねらい

<ol style="list-style-type: none"> <li>1.医療依存度の高い療養者・介護者の特徴を理解する。</li> <li>2.医療依存度の高い療養者・介護者への看護を理解する。</li> <li>3.医療の選択における意思決定への支援方法について考える。</li> </ol>
--

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	医療処置が必要な療養者・介護者の看護(1) 在宅における経管栄養法の看護	講義/演習	
2	医療処置が必要な療養者・介護者の看護(2) 在宅における中心静脈栄養法の看護	講義/演習	
3	医療処置が必要な療養者・介護者の看護(3) 在宅酸素・在宅人工呼吸器の実際	講義/演習	
4	医療処置が必要な療養者・介護者の看護(4) 在宅酸素療法を必要とする人への看護	講義/演習	
5	医療処置が必要な療養者・介護者の看護(5) 在宅酸素療法を必要とする人への看護	講義/演習	
6	医療処置が必要な療養者・介護者の看護(6) 在宅における膀胱留置カテーテルの看護	講義/演習	
7	医療処置が必要な療養者・介護者の看護(7) 在宅におけるストーマの看護	講義/演習	
8	医療処置が必要な療養者・介護者の看護(8) 在宅における排泄に対する看護	演習	
9	医療処置が必要な療養者・介護者の看護(9) 在宅における褥瘡をもつ人への看護	講義/演習	
10	医療処置が必要な療養者・介護者の看護(10) 在宅における褥瘡をもつ人への看護	演習	
11	医療処置が必要な療養者・介護者の看護(11) 在宅における服薬管理と看護	講義/演習	
12	自己決定を必要とする人への看護(1) 難病療養者と介護者の看護	講義/演習	
13	自己決定を必要とする人への看護(2) 難病療養者と介護者の看護	講義/演習	
14	自己決定を必要とする人への看護(3) 難病療養者と介護者の看護	演習	
15	医療依存度の高い療養者・介護者への看護	講義(まとめ)	

使用教科書・教材・参考書

地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア メディカ出版 地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術 メディカ出版
--

成績評価の方法

筆記試験100点
----------

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。
----------------------------

科目名	地域で療養する人への継続看護		担当教員	品田 裕子		
専門分野	教育内容	地域・在宅看護論	単位数 時間数	1単位 15時間	年次	2年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
急性期病棟での看護、発展途上国で外来・病棟マネジメントを経験。訪問看護ステーションでは予防的支援、医療依存度の高い療養者や在宅での看取り看護、また家族への支援を実践した。	様々な環境にある対象の価値観や背景を考慮し、疾患だけでなく全体を把握した看護ができるように、実務経験を活かし事例を交えながら授業を行う。

授業概要・授業のねらい

<ol style="list-style-type: none"> <li>1.対象の健康レベルに応じた看護について学ぶ。</li> <li>2.退院支援・多職種連携・継続看護について学ぶ。</li> <li>3.地域における看護師の役割について考える。</li> </ol>
---

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	地域で療養生活を送る人と介護者のアセスメント(1) 療養者・介護者に対するアセスメント	講義/演習	
2	地域で療養生活を送る人と介護者のアセスメント(2) 生活・環境に対するアセスメント	講義/演習	
3	介入時期と看護の継続性(1) 治療の場から在宅への移行・健康レベルに応じた看護	講義/演習	
4	介入時期と看護の継続性(2) 継続看護の意義と方法	講義/演習	
5	継続看護と多職種連携(1) 病院から在宅へ、在宅生活の継続	講義/演習	
6	継続看護と多職種連携(2) 事例検討	演習	
7	継続看護と多職種連携(3) 事例検討	演習	
8	継続看護と多職種連携(4)	演習(発表)	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用教科書・教材・参考書

地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア メディカ出版
----------------------------

成績評価の方法

筆記試験100点
----------

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。
----------------------------

# 成人看護学

## 7単位（180時間）

### <ねらい>

成人期は、ライフサイクルのなかで最も長く、著しい変化をたどる。身体機能が成熟し、一定の年齢に達すると身体的成長は停止となり、知的活動・情緒的变化は継続し発達する。また、経験した人生観、価値観を持ち家庭、社会のなかで中核的な役割を担い、その人らしい生活を営んでいる。現代社会の中で多くの役割を担うため、ストレスも大きく充実感のある生活を過ごす人もいれば、対応しきれずそのことが原因で疾病に罹患し、また、生活習慣病などによって人生の途中で役割を果たせなくなる人もいる。そのため、個人が病気になった要因、対象の社会背景、価値観、セルフケア能力を十分に理解し支援することが必要とされている。また平均寿命の延長、雇用形態の多様化などの社会情勢に伴い成人の社会的役割も大きく変化している。

平均在院日数の短縮化に伴い、病院完結型の医療から地域完結型の医療へと転換し、地域包括ケアシステムがより重要となり、地域でその人らしく健康に生活できるよう支援していくことが求められている。成人看護学では、対象を「自分自身でマネジメントできる人」と捉え、対象の健康レベルの移り変わりの特性を、疾病の経過という視点だけではなく、対象の生活の視点に主軸をおき、健康課題を導きだし支援する方法を学ぶ。また、健康レベルに応じて理論を活用した看護実践の方法を学習する機会とする。

### <目的>

対象の発達段階や特徴をふまえ、セルフケア能力や健康レベル（急性期、回復期、慢性期、終末期）に適応する能力を支援するとともに健康レベルに応じた個別的な看護を実践するための基礎的能力を養う。

### <目標>

1. 経過に応じた対象のニーズ捉え、看護（ケア）する方法を理解できる。
2. 地域包括ケアシステムにおける病棟看護師の役割が理解できる。
3. 対象の希望や思いに寄り添った意思決定支援と倫理について理解できる。
4. 他者との関わりを通し、自己と他者への気づきを深めるとともに、自己の看護観を育む。

### <構成>

教育内容	科目	単位	時間数
成人看護学	成人看護学概論	1	30
	周術期の看護	1	15
	健康危機状態から回復を促す看護	1	30
	生活の再構築を支える看護	1	30
	セルフマネジメントを支える看護	1	30
	生と死を支える看護	1	30
	臨床判断と看護の実践	1	15
合計		7	180

科目名	成人看護学概論		担当教員	竹本 雄也 馬淵 由美子		
専門分野	教育内容	成人看護学	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
慢性期や急性期の病棟で成人期から老年期までを対象とした看護を経験。成人期の健康問題における疾患に対して、患者・家族を対象として入院から退院後の生活を含めた看護を実践していた。	成人を取り巻く環境と成人各期における対象の身体機能の変化ならびに精神・社会的特徴を理解するために実務経験を活かし生活習慣が及ぼす健康への影響を捉え、経過に応じたセルフケア能力を支援するために必要な知識・技術・態度を学ぶことができる授業を展開する。

授業概要・授業のねらい

<ol style="list-style-type: none"> <li>1.現代社会をふまえ、成人看護における対象の特徴が理解できる。</li> <li>2.成人に特有な健康問題の特徴とその予防が理解できる。</li> <li>3.健康レベルに応じたセルフケアアプローチを理解できる。</li> <li>4.対象の健康レベルの特徴に応じた理論の活用について理解できる。</li> </ol>
--

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	成人期の特徴	講義	
2	成人期の生活と健康	講義	
3	成人学習の特徴	講義	
4	成人期のヘルスプロモーション	講義	
5	成人期の生活習慣と健康	講義	
6	ワーク・ライフ・バランスと健康	講義	
7	生活ストレスと健康	講義	
8	成人期における病いの体験	講義/演習	
9	健康生活の急激な破綻から回復を促す看護(急性期)	講義	
10	理論を使用した成人への看護アプローチ(1) ストレス/危機理論	講義	
11	慢性病との共存を支える看護(慢性期)	講義	
12	理論を使用した成人への看護アプローチ(2) セルフケア理論、病みの軌跡理論	講義	
13	理論を使用した成人への看護アプローチ(3) 障害受容理論、自己効力理論	講義	
14	障害がある人の生活とリハビリテーション(回復期)	講義	
15	人生の最期のときを支える看護(終末期)	講義	

使用教科書・教材・参考書

成人看護学①成人看護学概論 メディカ出版
----------------------

成績評価の方法

筆記試験100点
----------

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。
----------------------------

科目名	周術期の看護		担当教員	竹本 雄也		
専門分野	教育内容	成人看護学	単位数 時間数	1単位 15時間	年次	2年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
集中治療室、急性期病棟での実務経験を有し、患者・家族を対象に術前から術後、退院支援の看護を実践していた。	実務経験を活かし周術期にある対象の特徴を理解し、合併症の予防と早期回復支援を学ぶことができる授業をする。

授業概要・授業のねらい

1. 周術期における対象の特徴を理解できる。
2. 周術期に応じた看護に必要な知識・技術・態度を理解する。
3. 事例患者を通して、周術期の看護の実際を理解する。

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	周術期にある対象の特徴と意思決定支援 周術期患者の心理的変化、危機理論	講義	
2	手術前の看護 手術前の意思決定支援、検査、看護師の役割	講義	
3	手術中の看護 麻酔による身体の影響と手術侵襲と生体の反応	講義/演習	
4	手術後の看護(消化器) 術後合併症のアセスメント/術後の管理	講義/演習	
5	手術後の看護(呼吸器) 術後合併症のアセスメント/術後の管理	講義/演習	
6	手術後の看護(循環器) 術後合併症のアセスメント/術後の管理	講義/演習	
7	手術後の看護の実際(1)	講義/演習	
8	手術後の看護の実際(2)	講義/演習	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用教科書・教材・参考書

成人看護学④周術期 メディカ出版

成績評価の方法

筆記試験100点

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	健康危機状態から回復を促す看護		担当教員	藤原 美穂 竹本 雄也 望月 絵理香		
専門分野	教育内容	成人看護学	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	2年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
急性期から慢性期病棟で成人期にある対象の看護を経験。手術療法・化学療法・放射線療法を受ける患者や家族に対する看護、退院や転院の支援などの看護を実践していた。	実務経験を活かし生命の危機状況および症状の急性増悪など、急激な健康状態の変化にある人ならびにその家族の特徴を理解し、重症化の回避・早期回復に向けた看護を学ぶことができる授業を展開する。

授業概要・授業のねらい

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 急激に健康状態が変化している急性期患者の身体的・心理的・社会的特徴を学ぶ。</li> <li>2. 生命の危機的状況にある患者と家族への基本的な看護を学ぶ。</li> <li>3. 身体的・心理的反応から、急性期に必要なアセスメントを行ない、対象・家族への看護方法を学ぶ。</li> </ol>
---

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	健康危機状況にある患者の理解とその特徴	講義	
2	健康危機状況にある患者と家族の看護	講義/演習	
3	救急医療を必要とする患者・家族の看護(1)	講義/演習	
4	救急医療を必要とする患者・家族の看護(2)	講義/演習	
5	救急医療を必要とする患者・家族の看護(3)	講義/演習	
6	救急医療を必要とする患者・家族の看護(4)	講義/演習	
7	急性期病棟における患者・家族の看護(1)	講義	
8	急性期病棟における患者・家族の看護(2)	講義	
9	急性期病棟における患者・家族の看護(3)	講義/演習	
10	急性期病棟における患者・家族の看護(4)	実技演習	
11	集中治療を必要とする患者・家族の看護(1)	講義	
12	集中治療を必要とする患者・家族の看護(2)	講義	
13	集中治療を必要とする患者・家族の看護の実際(1)	講義/演習	
14	集中治療を必要とする患者・家族の看護の実際(2)	講義/演習	
15	集中治療を必要とする患者・家族の看護の実際(3)	講義/演習	

使用教科書・教材・参考書

成人看護学②健康危機状態/セルフケアの再獲得 メディカ出版 健康の回復と看護①呼吸機能障害/循環機能障害 メディカ出版 健康の回復と看護②栄養代謝機能障害 メディカ出版 疾患と看護②循環器 メディカ出版
--

成績評価の方法

筆記試験100点
----------

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。
----------------------------

科目名	生活の再構築を支える看護		担当教員	岩岡 由紀子 畑山 美加子		
専門分野	教育内容	成人看護学	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	2年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
病棟看護師として実務経験を有し、成人期における周手術期から回復期・終末期の看護を経験。手術療法・化学療法や退院・転院支援などの看護を実践している。	実務経験を活かして様々な疾患により障害が発生し、社会復帰に向けてリハビリテーションを必要とする対象へのADL拡大、二次障害予防と障害受容、生活の再構築への支援の方法と姿勢を学ぶことができる授業をする。

授業概要・授業のねらい

<ol style="list-style-type: none"> <li>1.回復期にある対象及び家族の特徴を理解する</li> <li>2.対象及び家族の障害の受容に向けた援助(障害受容過程)を理解する</li> <li>3.日常生活の拡大に向けた援助を理解する</li> <li>4.社会復帰に向けた援助を理解する</li> </ol>
--

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	回復期看護(1) 回復期にある成人期と取り巻く人々の特徴	講義	
2	回復期看護(2) 障害受容過程とセルフケア再獲得モデル	講義/演習	
3	回復期看護(3) 成人期におけるリハビリテーション看護	講義/演習	
4	セルフケアの再獲得に向けた看護(1) 対象の全体像を捉える	講義/演習	
5	セルフケアの再獲得に向けた看護(2) 退院後の生活に必要なセルフケアの再獲得	講義/演習	
6	セルフケアの再獲得に向けた看護(3) 成人期にある対象に応じた看護	講義/演習	
7	社会復帰に向けた看護(1) 社会的存在としての成人期の自立と自律	講義/演習	
8	社会復帰に向けた看護(2) 他者を巻き込んで生きる	講義/演習	
9	生活の再構築を支える看護(1) ストーマ造設事例:受容過程の理解	講義/演習	
10	生活の再構築を支える看護(2) ストーマ造設事例:セルフケア低下状態のアセスメント	講義/演習	
11	生活の再構築を支える看護(3) ストーマ造設事例:生活基本行動のセルフケアの再獲得の支援	講義/演習	
12	生活の再構築を支える看護(4) ストーマ造設事例:社会生活のセルフケア再獲得の支援	講義/演習	
13	生活の再構築を支える看護の実際(1) 事例患者の看護計画立案	講義/演習(GW)	
14	生活の再構築を支える看護の実際(2) 看護計画の発表	演習(発表)	
15	生活の再構築を支える看護とは	講義/演習(まとめ)	

使用教科書・教材・参考書

成人看護学①成人看護学概論 メディカ出版 成人看護学②健康危機状況/セルフケアの再獲得 メディカ出版 成人看護学④周術期看護 メディカ出版 成人看護学⑤リハビリテーション看護 疾患と看護③消化器 メディカ出版 疾患と看護⑤脳・神経 メディカ出版
---

成績評価の方法

筆記試験80点 課題点20点
----------------

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。
----------------------------

科目名	セルフマネジメントを支える看護		担当教員	藤原 美穂		
専門分野	教育内容	成人看護学	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	2年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
内科病棟では、生活習慣病(糖尿病)から合併症である腎障害による透析患者との看護を実践している。また造血機能障害患者に対しては、化学療法や輸血療法を受ける患者や家族の関わりを含めた看護を実践していた。	実務経験を活かして治療により病態がある程度安定しているが、症状が固定化し経過が長く病気とともに生活していく必要がある対象へ、合併症を予防して良好な状態を維持するセルフマネジメントを支援する方法とその姿勢を学ぶことができる授業をする。

授業概要・授業のねらい

<ol style="list-style-type: none"> <li>健康障害によりセルフマネジメントが必要となる対象の特徴を理解する。</li> <li>セルフマネジメントに向けた看護を実践するために必要な知識・技術・態度を修得する。</li> <li>社会情勢をふまえた事例から、疾患受容を促進しセルフマネジメントを支援する看護を学ぶ。</li> </ol>
---

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	慢性期とは 慢性期における患者・家族の特徴	講義	
2	セルフマネジメント支援を必要とする患者・家族の看護(1) 意思決定支援と倫理的配慮	講義/演習	
3	セルフマネジメント支援を必要とする患者・家族の看護(2) 治療の導入と管理	講義/演習	
4	セルフマネジメント支援を必要とする患者・家族の看護(3) 合併症予防と生活指導	講義/演習	
5	セルフマネジメント支援を必要とする患者・家族の看護の実際(1)	講義/演習	
6	セルフマネジメント支援を必要とする患者・家族の看護の実際(2)	講義/演習	
7	セルフマネジメント支援を必要とする患者・家族の看護の実際(3)	講義/演習	
8	セルフマネジメントを目指す看護(1) 教育入院	講義/演習	
9	セルフマネジメントを目指す看護(2) 治療の導入・管理	講義/演習	
10	セルフマネジメントを目指す看護(3) 合併症予防と生活指導	講義/演習	
11	セルフマネジメントを目指す看護の実際(1)	講義/演習	
12	セルフマネジメントを目指す看護の実際(2)	講義/演習	
13	セルフマネジメントを目指す看護の実際(3)	講義/演習	
14	セルフマネジメントを目指す上での倫理的配慮	講義	
15	セルフマネジメントを支える看護とは	講義/演習	

使用教科書・教材・参考書

成人看護学③セルフマネジメント メディカ出版
------------------------

成績評価の方法

筆記試験100点
----------

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。
----------------------------

科目名	生と死を支える看護		担当教員	畑山 美加子		
専門分野	教育内容	成人看護学	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	2年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
内科病棟・緩和ケア病棟で、成人から老年期にある対象とその家族に対して、薬物療法や放射線療法などにより心理・社会・スピリチュアルケアなど包括的な看護を実践している。	実務経験を活かして疾病の治療が望めず病態が終末像を示し、死までの最期の生きる時間をその人らしく過ごすための、全人的苦痛の緩和に向けたケアや家族への支援方法や臨床倫理をふまえた姿勢を学ぶことができる授業をする。

授業概要・授業のねらい

1. 生と死について考えることができる。
2. 対象の全人的苦痛に寄り添う姿勢を養う。
3. 対象の全人的苦痛を緩和する方法を理解する。
4. 家族への支援とグリーフケアについて理解する。
5. 事例を通して、臨床倫理について思考・判断する。

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	緩和ケアの歴史と現状	講義	
2	主要な身体症状のマネジメントとケア 日常を整える援助	講義	
3	家族ケア、グリーフケアについて 家族がたどる心理プロセス	講義	
4	社会的・スピリチュアルケア 緩和ケアにおける倫理的課題	講義	
5	看取りの看護 死が近づいた患者のケア/エンゼルケア	講義	
6	人生の終焉の看護(1) がん患者への看護	講義	
7	人生の終焉の看護(2) がん患者への看護	講義	
8	人生の終焉の看護(3) 化学療法の看護	講義	
9	放射線治療を受ける患者の看護	講義/演習	
10	全人的苦痛の看護について	講義/演習	
11	全人的苦痛の看護 スピリチュアルペイン	講義/演習	
12	終末期における意思決定支援について	講義/演習	
13	終末期における意思決定支援 倫理的問題に対する配慮	講義/演習	
14	終末期における意思決定支援の実際	講義/演習	
15	自己の死生観について 緩和ケアにおける医療者のストレスマネジメント	講義/演習	

使用教科書・教材・参考書

成人看護学⑥緩和ケア メディカ出版

成績評価の方法

筆記試験100点

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	臨床判断と看護の実践		担当教員	岩岡 由紀子		
専門分野	教育内容	成人看護学	単位数 時間数	1単位 15時間	年次	2年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
急性期から終末期における様々な疾患や患者に対する看護を経験し、患者のニーズ、優先度を捉えた看護を実践していた。	これまでの学習をふまえ、対象の多様な状況に対して「気づき」「解釈」「行為」「省察」することを実務経験を活かし、臨床判断を行うための基礎的能力を養うための授業をする。

授業概要・授業のねらい

1.対象の健康レベル(急性期、回復期、慢性期、終末期)の特徴をふまえ、対象のおかれた状況を思考・判断する能力を養う。
--

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	臨床判断とは ～気づきのトレーニング～	講義/演習	
2	臨床で遭遇する臨床判断が求められる場面:事例(1) ～仮説検証とアセスメント～	講義/演習	
3	臨床で遭遇する臨床判断が求められる場面:事例(1) ～看護実践と省察～	講義/演習	
4	臨床で遭遇する臨床判断が求められる場面:事例(2) ～仮説検証とアセスメント～	講義/演習	
5	臨床で遭遇する臨床判断が求められる場面:事例(2) ～看護実践と省察～	講義/演習	
6	臨床で遭遇する臨床判断が求められる場面:事例(3) ～仮説検証とアセスメント～	講義/演習	
7	臨床で遭遇する臨床判断が求められる場面:事例(3) ～看護実践と省察～	講義/演習	
8	臨床判断に必要な要素とは	講義/演習	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用教科書・教材・参考書

成人看護学①成人看護概論 メディカ出版 成人看護学④周術期看護 メディカ出版 健康の回復と看護①呼吸機能障害/循環機能障害 メディカ出版 健康の回復と看護②栄養機能代謝障害 メディカ出版 健康の回復と看護④脳・神経機能障害/感覚機能障害 メディカ出版
---

成績評価の方法

筆記試験100点
----------

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。
----------------------------

# 老 年 看 護 学

## 4 単 位 (105 時 間)

### <ねらい>

老年期は人生の最終段階であり、高齢者は加齢に伴う心身の変化の中、老いに適応し折り合いをつけながら、できるだけ健やかに自分らしく自立して生活したいという願いを持っている。また、高齢者の価値観や生き方には、これまでの生活や考え方、社会との関わり方のすべてが反映されており、一人ひとり異なっている。そして、高齢者にとって最も身近な家族の存在は重要であり、家族を含めて看護する視点も必要である。そのため、高齢者を取り巻く環境や様々な社会制度の知識と、高齢者・家族の思いを尊重した柔軟な対応が求められている。

このようなことから老年看護学では、時代の変化や社会の動向を踏まえ、様々な状態にある高齢者の健康生活維持と、最期までその人らしく自立した生活がかなえられる看護について学ぶ。

### <目的>

高齢者の特徴と高齢社会における老年看護の役割を理解し、加齢と生活障害の程度に応じた、その人らしい自立した生活を支援できる能力を養うことができる。

### <目標>

1. 高齢者の多様性と、その生活を取り巻く社会を理解することができる。
2. 加齢に伴う身体的・心理的・社会的側面の変化を理解することができる。
3. 日常生活に援助を必要とする高齢者個々に応じた看護技術を習得することができる。
4. 健康障害の程度に応じた高齢者の看護を捉え、実践する能力を習得することができる。
5. 高齢者個々の生活史を踏まえた強みに着目した看護実践力を養うことができる。

### <構成>

教育内容	科 目	単 位	時 間 数
老年看護学	老年看護学概論	1	30
	日常生活に支援を必要とする高齢者の看護	1	30
	健康障害をもつ高齢者の看護	1	30
	高齢者へのきれめのない看護	1	15
合 計		4	105

科目名	老年看護学概論		担当教員	清水 沙苗 前田 エリ		
専門分野	教育内容	老年看護学	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
急性期から終末期までの、家族を含めた高齢者看護を経験。カテーテル検査・治療や透析等、侵襲を伴う検査・治療での様々な看護の経験を有する。	実務経験を活かし、高齢者の「その人らしさ」を支える高齢者看護と看護師の役割について、事例を通して講義を展開する。

授業概要・授業のねらい

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者看護の概要を理解する</li> <li>2. 加齢による身体的・心理的・社会的変化を理解する</li> <li>3. 高齢者にとっての健康的な生活を理解する</li> <li>4. 高齢者を取り巻く社会の概要を理解する</li> </ol>
---

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	高齢者の理解(1) 高齢者の特徴と介護保険施設	講義	
2	高齢者の理解(2) 日本の高齢化と高齢者の健康	講義	
3	高齢者を支える社会と仕組み(1) 高齢者を支える制度と社会資源	講義	
4	高齢者を支える社会と仕組み(2) 地域包括ケアシステムと介護保険サービス	講義	
5	高齢者を支える社会と仕組み(3) 高齢者の生活と家族	講義	
6	加齢に伴う高齢者の変化(1) 身体的変化と生活への影響	講義	
7	加齢に伴う高齢者の変化(2) 心理的・社会的変化と生活への影響	講義	
8	加齢に伴う高齢者の変化(3) フィジカルアセスメントと高齢者に多い疾患	講義	
9	高齢者の生活を支える看護(1) 高齢者看護の基本	講義	
10	高齢者の生活を支える看護(2) 情報収集とアセスメント	講義	
11	高齢者の生活を支える看護(3) ICFの活用	講義	
12	高齢者の生活を支える看護(4) 対象の全体像	講義	
13	高齢者の健康維持と介護予防(1) 高齢者看護の理論と倫理	講義	
14	高齢者の健康維持と介護予防(2) 高齢者のヘルスプロモーション	講義	
15	高齢者の健康維持と介護予防(3) 高齢者のリスクマネジメントと災害看護	講義	

使用教科書・教材・参考書

老年看護学①高齢者の健康と障害 メディカ出版 老年看護学②高齢者看護の実践 メディカ出版
---

成績評価の方法

筆記試験90点 課題10点
---------------

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。
----------------------------

科目名	日常生活に支援を必要とする高齢者の看護		担当教員	清水 沙苗		
専門分野	教育内容	老年看護学	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	2年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
内科・外科病棟において、急性期から終末期までのあらゆる年齢層の患者と家族に対する看護を経験。化学療法や手術療法に対する看護や退院支援を実践してきた。	実務経験を活かし、高齢者の強みを捉えたその人らしい生活への支援や老年看護過程について、事例を通じて講義と演習を展開する。

授業概要・授業のねらい

- 1.日常生活に支援を必要とする高齢者への看護を理解する
- 2.高齢者の強みを生かし、その人らしい自立を支える日常生活援助を考える

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	高齢者の食事を支える看護(1) 高齢者にとっての食事の意義	講義	
2	高齢者の食事を支える看護(2) 対象に合わせた食生活の支援	実技演習	
3	高齢者の排泄を支える看護(1) 排泄行動と高齢者の特徴	講義	
4	高齢者の排泄を支える看護(2) 対象に合わせた排泄の支援	実技演習	
5	高齢者の活動を支える看護(1) 高齢者の活動と休息	講義	
6	高齢者の活動を支える看護(2) 歩行・移動を支える看護	講義	
7	高齢者の生活を支える看護 高齢者に起こりやすい症状と看護	講義	
8	その人らしさを支える看護(1) 高次脳機能障害をもつ高齢者の看護	講義	
9	その人らしさを支える看護(2) 認知症をもつ高齢者の看護①	講義	
10	その人らしさを支える看護(3) 認知症をもつ高齢者の看護②	講義	
11	高齢者の日常生活を支える援助(1) 高齢者看護の視点	講義	
12	高齢者の日常生活を支える援助(2) 疾患が生活に及ぼす影響	講義	
13	高齢者の日常生活を支える援助(3) 情報収集とアセスメント	講義	
14	高齢者の日常生活を支える援助(4) ICFの活用	講義	
15	高齢者の日常生活を支える援助(5) 対象の全体像	講義	

使用教科書・教材・参考書

老年看護学①高齢者の健康と障害 メディカ出版  
老年看護学②高齢者看護の実践 メディカ出版

成績評価の方法

筆記試験70点 評価物30点

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	健康障害をもつ高齢者の看護		担当教員	清水 沙苗		
専門分野	教育内容	老年看護学	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	2年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
病棟での臨床経験を有し、周手術期から回復期・終末期の看護を経験。手術療法・化学療法や退院・転院支援を実践している。	実務経験を活かし、高齢者の全体像と強みを捉えてその人らしい自立に向けた援助について、事例を通じて講義を展開する。

授業概要・授業のねらい

<ol style="list-style-type: none"> <li>1.健康障害のある高齢者への看護を理解する</li> <li>2.治療過程における高齢者の看護を理解する</li> <li>3.強みに着目し、退院後の生活を見据えた看護を考える</li> <li>4.高齢者が最期までその人らしく生きる看護を考える</li> </ol>
---

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	治療を受ける高齢者の看護(1) 入院・治療が生活に及ぼす影響	講義	
2	治療を受ける高齢者の看護(2) 高齢者に多い疾患と看護(呼吸・循環)	講義	
3	治療を受ける高齢者の看護(3) 高齢者に多い疾患と看護(脳血管)	講義	
4	治療を受ける高齢者の看護(4) 高齢者に多い疾患と看護(悪性新生物)	講義	
5	治療を受ける高齢者の看護(5) 高齢者に多い疾患と看護④(骨・関節)	講義	
6	治療を受ける高齢者の看護(6) 高齢者に多い疾患と看護の実際	実技演習	
7	混乱状態にある高齢者への看護(1) 疾患・症状の理解	講義	
8	混乱状態にある高齢者への看護(2) 高齢者への安全な看護	実技演習	
9	高齢者の終末期を支える看護(1) 高齢者と死	講義	
10	高齢者の終末期を支える看護(2) 家族を支える看護	講義	
11	退院後の生活を見据えた看護(1) 老年看護過程	講義	
12	退院後の生活を見据えた看護(2) 本人と家族の思いを知る	講義	
13	退院後の生活を見据えた看護(3) 情報収集とアセスメント	講義	
14	退院後の生活を見据えた看護(4) アセスメントから捉える全体像	講義	
15	退院後の生活を見据えた看護(5) ICFの活用	講義	

使用教科書・教材・参考書

老年看護学①高齢者の健康と障害 メディカ出版 老年看護学②高齢者看護の実際 メディカ出版
---

成績評価の方法

筆記試験50点 評価物50点
----------------

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。
----------------------------

科目名	高齢者へのされめのない看護		担当教員	清水 沙苗		
専門分野	教育内容	老年看護学	単位数 時間数	1単位 15時間	年次	2年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
内科・外科病棟において、急性期から終末期までのあらゆる年齢層の患者と家族に対する看護を経験。化学療法や手術療法に対する看護や退院支援を実践してきた。	実務経験を活かし、高齢者の強みを捉えたその人らしい生活への支援や老年看護過程について、事例を通じて講義と演習を展開する。

授業概要・授業のねらい

1. 高齢者の強みを生かし、目標志向型で看護過程を展開できる

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	高齢者看護の実践(1) 対象の強みを含めた全体像	講義	
2	高齢者看護の実践(2) 目標設定と看護の方向性	講義	
3	高齢者看護の実践(3) その人らしい生活を目指した看護計画	講義	
4	高齢者看護の実践(4) 看護実践にむけた準備	講義/演習	
5	高齢者看護の実践(5) その人らしい生活を目指した看護実践	実技演習	
6	高齢者看護の実践(6) その人らしい生活を目指した看護実践	実技演習	
7	高齢者看護の実践(7) 看護計画の評価・修正	講義	
8	高齢者へのされめのない看護	講義	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用教科書・教材・参考書

老年看護学①高齢者の健康と障害 メディカ出版  
老年看護学②高齢者看護の実践 メディカ出版

成績評価の方法

評価物100点

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

# 小児看護学

## 4単位（105時間）

### <ねらい>

子どもがより健やかに成長・発達を遂げていくことは社会の願いである。小児看護学では、すべての子どもが健全な成長・発達を遂げられるように、子どもと家族を支援することを目指している。変化する社会のなかで、子どもの権利を守り、子どもを全人的に捉え、子どもと家族が置かれている状況を的確に判断し、さまざまな状況や健康レベルにある子どもと家族に対する看護を学ぶ。

### <目的>

小児看護の概要と看護の対象である子どもの成長・発達の特徴を理解し、子どもの健康の増進、苦痛の緩和、健康の回復にむけた看護を学ぶ。

### <目標>

1. 小児看護の概要を理解し、看護の対象である子どもの成長・発達の特徴が理解できる。
2. 子どもの発達段階に応じた生活と日常生活援助が理解できる。
3. 子どもの看護に必要な基本的看護技術が習得できる。
4. 健康障害があり、さまざまな状況にある子どもの特徴と看護が理解できる。
5. 子どもの特徴をふまえた看護の展開が理解できる。

### <構成>

教育内容	科目	単位	時間数
小児看護学	小児看護学概論	1	30
	子どもの日常生活援助	1	15
	小児臨床看護論	1	30
	健康障害のある子どもの看護	1	30
合計		4	105

科目名	小児看護学概論		担当教員	櫻田 章子 伊藤 ひかる		
専門分野	教育内容	小児看護学	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
大学病院や総合病院、小児専門病院の小児病棟や新生児集中治療室において、さまざまな発達段階や健康状態の子どもとその家族に対する看護を実践した経験がある。	実務経験を活かし、小児看護の対象である子どもの成長・発達の特徴と子どもを取り巻く家族や社会環境、子どもの健康と権利を守るための医療・保健・諸制度とその活用方法、子どもの健康課題についての講義・演習を行う。

授業概要・授業のねらい

<ol style="list-style-type: none"> <li>1.小児看護の概要と看護の役割を理解する。</li> <li>2.子どもの成長・発達の特徴、成長・発達の評価、健康課題を理解する。</li> <li>3.社会における子どもの位置づけ、保健、医療、教育、家族の視点から理解する。</li> </ol>
---

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	小児看護の特徴と理念(1)	講義	
2	小児看護の特徴と理念(2)	講義	
3	小児看護で用いられる理論(1)	講義	
4	小児看護で用いられる理論(2)	講義	
5	子どもの感染症予防と健康管理	講義	
6	子どもと家族を取り巻く社会	講義	
7	子どもの福祉に関する法律と施策	講義	
8	子どもの成長・発達	講義	
9	子どもの形態的成長・発達の特徴	講義	
10	子どもの機能的発達の特徴(1)	講義	
11	子どもの機能的発達の特徴(2)	講義	
12	子どもの心理・社会的発達の特徴(1)	講義	
13	子どもの心理・社会的発達の特徴(2)	講義	
14	学童期・思春期の子どもの特徴	講義	
15	子どもによくみられる健康問題	講義	

使用教科書・教材・参考書

小児看護学①小児の発達と看護 メディカ出版
-----------------------

成績評価の方法

筆記試験90点 課題・成果物10点
----------------------

備考

<p>※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。 教科書の該当範囲を熟読して授業に臨んでください。授業後には毎回&lt;リフレクション&gt;に回答してください。分からないことはそのままにせず、その都度、質問・解決をすることを心がけてください。</p>
---

科目名	子どもの日常生活援助		担当教員	櫻田 章子		
専門分野	教育内容	小児看護学	単位数 時間数	1単位 15時間	年次	1年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
大学病院や総合病院、小児専門病院の小児病棟において、さまざまな発達段階や健康状態の子どもとその家族に対する看護を実践した経験がある。	実務経験を活かし、子どもの発達段階に応じた生活と成長・発達の特徴、健康増進に向けた基本的な日常生活援助についての講義・演習を行う。

授業概要・授業のねらい

- 1.子どもの発達段階に応じた生活と成長・発達の特徴、生活援助を理解する。
- 2.子どもの発達段階に応じた基本的な日常生活援助を習得する。

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	子どもの発達段階に応じた生活と成長・発達の特徴(1)	講義/演習	
2	子どもの発達段階に応じた生活と成長・発達の特徴(2)	講義/演習	
3	子どもの発達段階に応じた生活と成長・発達の特徴(3)	講義	
4	子どもの日常生活援助(1)	講義/演習	
5	子どもの日常生活援助(2)	講義	
6	子どもの日常生活援助(3)	講義/演習	
7	子どもの生活援助技術の実際(1)	実技演習	
8	子どもの生活援助技術の実際(2)	実技演習	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用教科書・教材・参考書

小児看護学①小児の発達と看護 メディカ出版  
小児看護学②小児看護技術 メディカ出版

成績評価の方法

筆記試験70点  
課題・成果物30点

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。  
教科書の該当範囲を熟読して授業に臨んでください。授業後には毎回<リフレクション>に回答してください。分からないことはそのままにせず、その都度、質問・解決をすることを心がけてください。

科目名	小児臨床看護論		担当教員	櫻田 章子 櫻井 里奈 伊藤 ひかる		
専門分野	教育内容	小児看護学	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	2年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
大学病院や総合病院、小児専門病院の小児病棟や新生児集中治療室において、さまざまな発達段階や健康状態の子どもとその家族に対する看護を実践した経験がある。	実務経験を活かし、病気や障害、症状を示す子どもと家族への影響や特徴や子どもの健康と権利を守るための看護、さらに子どものフィジカルアセスメントならびに検査、処置、治療に必要な基本的な知識と技術について講義・演習を行う。

授業概要・授業のねらい

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病気や障害、症状がある子どもの特徴と看護を理解する。</li> <li>2. 検査・処置・治療が子どもへ与える影響と看護を理解する。</li> <li>3. 子どもの看護に必要な基本的な看護技術を習得する。</li> </ol>
--

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	病気・障害をもつ子どもの特徴と看護	講義	
2	子どもの入院環境	講義/演習	
3	入院している子どもと家族の看護	講義/演習	
4	検査・処置・治療を受ける子どもと家族の看護(1)	講義	
5	検査・処置・治療を受ける子どもと家族の看護(2)	講義	
6	検査・処置・治療を受ける子どもと家族の看護(3)	講義	
7	子どものフィジカルアセスメント(1)	講義	
8	子どものフィジカルアセスメント(2)	実技演習	
9	症状を示す子どもの看護(1)	講義/演習	
10	症状を示す子どもの看護(2)	講義/演習	
11	症状を示す子どもの看護(3)	講義/演習	
12	症状を示す子どもの看護(4)	講義/演習	
13	症状を示す子どもの看護(5)	講義/演習	
14	外来における子どもと家族の看護	講義	
15	生命徴候が危険な状況のアセスメントと看護	講義/演習	

使用教科書・教材・参考書

小児看護学①小児の発達と看護 メディカ出版 小児看護学②小児看護技術 メディカ出版 小児看護学③小児の疾患と看護 メディカ出版
---

成績評価の方法

筆記試験75点 課題・成果物25点
----------------------

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。 教科書の該当範囲を熟読して授業に臨んでください。授業後には毎回<リフレクション>に回答してください。分からないことはそのままにせず、その都度、質問・解決をすることを心がけてください。
---

科目名	健康障害のある子どもの看護		担当教員	櫻田 章子 櫻井 里奈		
専門分野	教育内容	小児看護学	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
大学病院や総合病院、小児専門病院の小児病棟や新生児集中治療室において、さまざまな発達段階や健康状態の子どもの家族に対する看護を実践した経験がある。	実務経験を活かし、あらゆる健康障害、さまざまな状況にある子どもたちが、その子どもらしく健やかに成長・発達しつづけることができるよう、それぞれの健康レベルに応じた看護について講義・演習を行う。

授業概要・授業のねらい

- 1.健康障害があり、さまざまな状況にある子どもの特徴と看護を理解する。
- 2.子どもの特徴をふまえた看護の展開を理解する。

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	先天的な健康問題をもつ子どもと家族への看護	講義	
2	ハイリスク新生児と家族への看護	講義	
3	心身障害のある子どもと家族への看護	講義	
4	成人への移行期にある健康障害をもつ子どもと家族への看護	講義	
5	子どもの訪問看護の実際	講義	
6	手術を受ける子どもと家族への看護	講義	
7	虐待・災害を受けた子どもと家族への看護(1)	講義/演習	
8	虐待・災害を受けた子どもと家族への看護(2)	講義/演習	
9	虐待・災害を受けた子どもと家族への看護(3)	講義/演習	
10	子どもの特徴をふまえた看護の展開(1)	講義/演習	
11	子どもの特徴をふまえた看護の展開(2)	講義/演習	
12	子どもの特徴をふまえた看護の展開(3)	講義/演習	
13	子どもの特徴をふまえた看護の展開(4)	講義/演習	
14	子どもの特徴をふまえた看護の展開(5)	講義/演習	
15	終末期にある子どもと家族への看護	講義	

使用教科書・教材・参考書

小児看護学①小児の発達と看護 メディカ出版  
 小児看護学②小児看護技術 メディカ出版  
 小児看護学③小児の疾患と看護 メディカ出版

成績評価の方法

筆記試験70点  
 課題・成果物30点

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。  
 教科書の該当範囲を熟読して授業に臨んでください。授業後には毎回<リフレクション>に回答してください。分からないことはそのままにせず、その都度、質問・解決をすることを心がけてください。

# 母性看護学

## 4単位 (105時間)

### <ねらい>

現在「母性」を取り巻く社会環境の変化は著しく、母性看護の役割はますます拡大されつつある。その対象は妊産褥婦とその子どもを含む全てのライフサイクルにある女性のみならず、そのパートナーや家族、さらに地域社会をも含むようになった。それらを踏まえて、母性看護学では主に“女性のライフサイクル”と“マタニティサイクル”におけるケアについて学ぶ。

また、生殖医療の進歩に伴って問われる生命倫理や、ドメスティックバイオレンス、幼児虐待などの社会問題についても考える機会とする。

### <目的>

母性の特性を理解し、母性の一生を通じた健康の維持、増進、疾病の予防および回復に向けた看護を実践できる基礎能力を養う。

### <目標>

1. 母性看護の概念と役割を理解する。
2. 女性のライフサイクルと各期の身体的、心理的・社会的特徴を理解する。
3. 母子保健・医療・福祉の動向と対策を学び、母性に関する諸問題について考える。
4. 生命観や生命倫理について考える。
5. マタニティサイクルにある対象の経過と健康からの逸脱状態を理解する。
6. マタニティサイクルにある対象がよりよい生活を送るための看護を理解する。
7. 母性看護学における基本技術を習得する。

### <構成>

教育内容	科目	単位	時間数
母性看護学	母性看護学概論	1	30
	妊婦と産婦の看護	1	30
	褥婦と新生児の看護	1	30
	ウイメンズヘルス	1	15
合計		4	105

科目名	母性看護学概論		担当教員	松浦 千恵 山田 千香子		
専門分野	教育内容	母性看護学	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
総合周産期母子医療センターや総合病院の産婦人科病棟にて様々なライフサイクルにある女性が抱える健康問題を解決するための看護を実践した経験がある。	実務経験を活かし、少子化や核家族化などの社会情勢を踏まえながら、母性看護に関連する様々な法律や制度について学ぶ。また「母性とは」、「生命の尊さ」について考える機会を持ち、生命観や母性観を養うきっかけとなるよう講義・演習を行う。

授業概要・授業のねらい

1.母性看護学の概念と母性看護学の対象について理解し、母性看護の役割を考える。

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	母性看護の基盤となる概念(1) 母性とは/セクシュアリティ	講義	
2	母性看護の基盤となる概念(2) リプロダクティブヘルス・ライツ /ヘルスプロモーション	講義	
3	女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 性周期の確立と衰退	講義/演習	
4	女性のライフサイクルと家族	講義	
5	母性の発達・成熟・継承	講義/演習	
6	母性看護における倫理 生命倫理と看護倫理	講義/演習	
7	母性看護における倫理 倫理的意思決定	講義/演習	
8	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	講義/演習	
9	母子保健施策における看護の役割(1)	講義/演習	
10	母子保健施策における看護の役割(2)	講義	
11	母子保健施策における看護の役割(3)	講義	
12	母子保健施策における看護の役割(4)	講義	
13	リプロダクティブヘルス(1) 家族計画指導・性感染症予防	講義/演習	
14	リプロダクティブヘルス(2) 10代の妊娠/女性とタバコ/女性と飲酒	講義/演習	
15	リプロダクティブヘルス(3) 性暴力を受けた女性/児童虐待	講義	

使用教科書・教材・参考書

母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護 メディカ出版

成績評価の方法

筆記試験100点

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。  
講義に該当する教科書のページをよく読み、授業に参加して下さい。

科目名	妊婦と産婦の看護		担当教員	松浦 千恵 高橋 郁絵		
専門分野	教育内容	母性看護学	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	2年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
総合周産期母子医療センターや総合病院の産科病棟において、妊産婦とその家族に向け、正常から逸脱なく経過できるよう看護を提供し、分娩介助を実践した経験がある。	実務経験を活かし、主に正常経過を辿る妊婦と産婦への支援、および正常を逸脱した場合の看護について講義・演習を行う。

授業概要・授業のねらい

1. 妊娠・分娩の生理および経過と看護を理解する。正常経過のみならず、正常を逸脱した場合の看護も理解する。

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	遺伝相談・不妊治療と看護	講義	
2	妊婦の身体的・心理的变化	講義	
3	妊婦・胎児の健康状態の理解	講義	
4	妊婦の健康診査1	実技演習	
5	妊婦の健康診査2	実技演習	
6	ハイリスクにある妊婦への看護	講義	
7	妊婦の日常生活にむけた保健指導	講義	
8	妊婦健診の技術	実技演習	
9	母親学級活動	演習	
10	分娩準備教育	講義	
11	分娩第1期～第2期の経過と看護	講義/演習(GW)	
12	分娩第3期～第4期の経過と看護	講義/演習(GW)	
13	分娩時の異常 (帝王切開術、常位胎盤早期剥離、前置胎盤、分娩監視装置)	講義	
14	産婦のニーズに合わせた分娩時の看護ケア	演習(GW)	
15	分娩時の看護技術	実技演習	

使用教科書・教材・参考書

母性看護学②母性看護の実践 メディカ出版  
母性看護学③母性看護技術 メディカ出版

成績評価の方法

筆記試験100点

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。  
講義に該当する教科書のページをよく読み、授業に参加して下さい。

科目名	褥婦と新生児の看護		担当教員	松浦 千恵 高橋 郁絵		
専門分野	教育内容	母性看護学	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	2年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
総合周産期母子医療センターや総合病院の産科病棟において、褥婦と新生児およびその家族への看護を経験。褥婦の正常経過を支援し、育児技術習得に向け看護を実践した。また新生児のスムーズな母体外生活への適応過程を支援する看護を実践した経験がある。	実務経験を活かし、主に正常経過を迎える褥婦および新生児への支援、正常を逸脱した場合の看護について講義・演習を行う。

授業概要・授業のねらい

1.産褥・新生児期の生理及び経過と看護を学ぶ。正常経過のみならず、正常を逸脱した状態における看護も理解する。

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	産褥の経過と褥婦の健康状態のアセスメント(1) 退行性変化の観察	講義	
2	産褥の経過と褥婦の健康状態のアセスメント(1) 事例展開	講義/演習(GW)	
3	産褥の経過と褥婦の健康状態のアセスメント(2) 進行性変化の観察	講義	
4	産褥の経過と褥婦の健康状態のアセスメント(2) 事例展開	講義/演習(GW)	
5	産褥期の退行性変化と進行性変化のまとめ	講義/演習(GW)	
6	産褥期の心理的变化と母親になる過程を支える援助	講義	
7	正常を逸脱した産褥経過をたどる褥婦の看護	講義	
8	褥婦の退行性変化の観察	実技演習	
9	褥婦の進行性変化の観察	実技演習	
10	褥婦の退院指導	講義/演習(GW)	
11	新生児の生理とアセスメント(1)	講義	
12	新生児の生理とアセスメント(2)	講義	
13	正常を逸脱した経過をたどる新生児の看護	講義	
14	新生児の看護に関する技術(1)	実技演習	
15	新生児の看護に関する技術(2)	実技演習	

使用教科書・教材・参考書

母性看護学②母性看護の実践 メディカ出版  
母性看護学③母性看護技術 メディカ出版

成績評価の方法

筆記試験100点

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。  
講義に該当する教科書のページをよく読み、授業に参加して下さい。

科目名	ウイメンズヘルス		担当教員	高橋 郁絵 山田 千香子		
専門分野	教育内容	母性看護学	単位数 時間数	1単位 15時間	年次	2年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
総合周産期母子医療センターや総合病院の産婦人科病棟や外来において、妊婦、産婦、褥婦への保健指導(母親学級、両親学級を含む)および思春期、更年期にある女性への保健指導を实践した経験がある。	実務経験を活かし、各ライフサイクルにある女性の健康保持・増進支援にむけた講義・演習を行う。

授業概要・授業のねらい

1.ライフサイクルにおけるウイメンズヘルスを理解する。
-----------------------------

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	女性のライフサイクル各期における看護 思春期から成熟期までの女性の変化とアセスメント	講義	
2	思春期の健康課題の明確化	演習(GW)	
3	思春期の健康課題への対応策	演習(発表)	
4	更年期から老年期までの女性の変化とアセスメント	講義	
5	更年期、老年期の健康課題の明確化	演習(発表準備)	
6	更年期、老年期の健康課題への対応	演習(発表)	
7	成熟期女性の看護 妊娠に向けた健康づくり 妊婦の保健指導	演習(発表)	
8	成熟期女性の看護 妊婦の保健指導	演習(発表)	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用教科書・教材・参考書

母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護 メディカ出版
--------------------------------

成績評価の方法

筆記試験100点
----------

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。 講義に該当する教科書のページをよく読み、授業に参加して下さい。
---

# 精神看護学

## 4単位（105時間）

### <ねらい>

精神看護学は、すべてのライフサイクルにある人を対象とし、精神の健康を維持するための援助および、精神のバランスを崩している人々や精神障害者とその家族に対する援助について学ぶ。

健康を精神と体の両面からとらえ、自身の精神の健康に関心を向けることができるような学習を取り入れていく。また、看護における関係の成立・進展の技術を習得することにより看護の学習者としての成長を促し、資質の向上を役立てられることをねらいとする。

精神障害者の理解とともに、精神の健康問題に関連した保健・医療・福祉サービスの成り立ちやそれに影響を与えた歴史的背景を踏まえ、精神障害者が地域でその人らしく生活できるための支援方法を理解していく。

### <目的>

すべてのライフサイクルにある精神看護の対象を理解し、精神のバランスを崩している人々や精神障害者とその家族の援助について学ぶ。

### <目標>

1. 精神の健康および精神看護の対象、看護の役割について理解できる。
2. 精神の健康の意義と精神の健康に影響を与える要因を理解できる。
3. 精神障害者の人権擁護について歴史的変遷や社会背景を理解するとともに、今後の課題について考える。
4. 精神の健康・維持増進と予防について必要な援助を学ぶ。
5. 精神障害者と家族に対する理解を深め、援助方法を学ぶ。
6. 精神障害者の社会復帰活動について精神保健医療・福祉の連携を通じて理解できる。

### <構成>

教育内容	科目	単位	時間数
精神看護学	精神看護学概論	1	30
	精神の健康を守る看護	1	15
	精神に健康問題のある対象への看護	1	30
	精神疾患のある対象の地域生活	1	30
合計		4	105

科目名	精神看護学概論		担当教員	細田 梓 小池 正美		
専門分野	教育内容	精神看護学	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
精神障害をもつ患者やその家族への精神的ケアをした経験がある。	実務経験を活かし、心の構造について、不安から生じる精神機能異常として現れる精神症状について講義している。また、歴史的な精神医療について振り返り、精神看護の課題と展望について講義する。

授業概要・授業のねらい

<p>1.看護・治療としての人間関係について理解できる。  2.その人らしさを創造する自我(こころ)について学ぶ。  3.精神医療の変遷について知り、医療における患者の権利や精神障害者の処遇をめぐる問題について理解できる。</p>
---

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	こころの健康(1)	講義	
2	こころの健康(2)	講義	
3	こころの構造と機能	講義	
4	脳と心の関係	講義	
5	こころの現象(1)	講義	
6	こころの現象(2)	講義	
7	ライフサイクルと危機(1)	講義	
8	ライフサイクルと危機(2)	講義	
9	精神障害者の人権とQOL	講義	
10	患者の処遇と歴史的変遷	講義	
11	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律	講義	
12	精神障害者福祉に関する法律	講義	
13	精神医療福祉に関する法制度	講義	
14	リエゾン精神看護	講義/演習	
15	医療チームにおける看護の役割	講義	

使用教科書・教材・参考書

<p>精神看護学①情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版  精神看護学②精神障害と看護の実践 メディカ出版</p>
---

成績評価の方法

筆記試験100点
----------

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。
----------------------------

科目名	精神の健康を守る看護		担当教員	細田 梓 早田 翔吾		
専門分野	教育内容	精神看護学	単位数 時間数	1単位 15時間	年次	2年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
心療内科での実務経験あり。身体症状・精神症状を訴える患者に対して臨床において看護の提供を実施していた。	人が誰しも抱えている精神的ストレスについて理解し、対処方法を理解することで、自分や他者に対して目を向けられるように講義展開を行う。また、精神におけるコミュニケーションは、大切な援助であり対象に合わせた方法・実践を要するため、演習を展開している。

授業概要・授業のねらい

- 1.自身や周囲の人のこころの健康に関心を向ける事ができる。
- 2.看護における関係の成立・進展の技術について理解できる。

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	こころの健康とマネジメント(1)	講義	
2	こころの健康とマネジメント(2)	講義	
3	こころの健康とマネジメント(3)	講義	
4	自己理解の必要性和方法(1)	講義	
5	自己理解の必要性和方法(2)	講義/演習	
6	援助的コミュニケーション(1)	講義	
7	援助的コミュニケーション(2)	講義/演習	
8	援助関係の構築	講義/演習	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用教科書・教材・参考書

精神看護学①情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版  
精神看護学②精神障害と看護の実践 メディカ出版

成績評価の方法

筆記試験85点、課題15点

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	精神に健康問題のある対象への看護		担当教員	佐藤 哲彦 細田 梓		
専門分野	教育内容	精神看護学	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	2年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
精神科病棟で急性期・慢性期病棟で看護提供した経験がある。	実務経験を活かし、精神科における安全な治療的環境について講義を行い、更に演習を通して学ぶ。精神疾患の主要症状、精神科救急、災害の看護について事例を用いて講義を行っている。

授業概要・授業のねらい

- 1.環境が個人に及ぼす影響を学び、治療的環境について理解を深める。
- 2.こころを障害された個人とその家族を支えるために必要な基礎的知識を理解できる。
- 3.災害時に必要なこころを障害された人への支援について理解できる。

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	急性期・回復期における症状と看護	講義	
2	慢性期における症状と看護	講義	
3	気分(感情)障害のある対象の看護	講義	
4	不安障害のある対象の看護	講義	
5	生理的障害のある対象の看護	講義/演習	
6	アディクションのある対象の看護	講義	
7	パーソナリティ障害のある対象の看護	講義	
8	発達障害のある対象の看護	講義	
9	精神科で行われる検査・治療を受ける対象の看護	講義/演習	
10	精神科における医療安全	講義/演習	
11	セルフケアへの支援(1)	講義/演習	
12	セルフケアへの支援(2)	講義/演習	
13	治療的環境と看護(1)	講義/演習	
14	治療的環境と看護(2)	講義/演習	
15	災害時の精神保健医療活動	講義/演習	

使用教科書・教材・参考書

精神看護学①情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版  
精神看護学②精神障害と看護の実践 メディカ出版

成績評価の方法

筆記試験70点 課題30点

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	精神疾患のある対象の地域生活		担当教員	早田 翔吾 丸山 雄大 細田 梓		
専門分野	教育内容	精神看護学	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	2年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
就労移行支援・定着支援・相談支援など精神障害者に対する地域生活支援を行っている。	精神科領域が入院中心から地域生活中心となり、看護師の役割は広がりを見せ、社会資源などの知識が必要とされている。実務経験を活かし実際に行われている活動から、事例を中心に講義・演習を行っている。

授業概要・授業のねらい

<p>1.精神保健におけるリハビリテーションの意味とサポートシステムについて理解することができる。</p> <p>2.生活障害をヘルスケアアセスメントし、その人らしく生活出来るよう看護過程を展開する。</p>
--

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	社会復帰・社会参加の基本 入院と地域をつなぐかわり	講義	
2	生きる力と強さに注目した援助	講義	
3	家族の理解と援助	講義	
4	保健医療に関する社会資源の活用と調整	講義	
5	社会資源の活用とマネジメント	講義	
6	地域における支援方法と実際	講義	
7	地域における精神障害者のニーズ	講義	
8	関係性のアセスメント(1)統合失調症	講義/演習	
9	関係性のアセスメント(2)統合失調症	講義/演習	
10	生活の障害に視点を置いた援助(1)	講義/演習	
11	関係性のアセスメント(3)気分障害	講義/演習	
12	関係性のアセスメント(4)気分障害	講義/演習	
13	生活の障害に視点を置いた援助(2)	講義/演習	
14	地域包括システムに向けての看護アプローチ	講義/演習	
15	その人らしく生活するための支援	講義/演習	

使用教科書・教材・参考書

<p>精神看護学①情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版</p> <p>精神看護学②精神障害と看護の実践 メディカ出版</p>
---

成績評価の方法

筆記試験85点 課題15点
---------------

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。
----------------------------

# 統 合 分 野

## 4 単位 (105 時間)

### <ねらい>

今まで学習した内容を臨床実践に近い形で学習し、知識・技術を統合する。卒業後スムーズに適応できるように今まで学んだ内容を基盤に臨床で実際に活用していくことができるように基礎教育の充実を図る。

### <目的>

看護に求められている社会的ニーズを理解し、個人や社会に対して適切な看護を提供できるよう、既習学習の知識と技術を統合して実践できる能力を養う。

### <目標>

1. 看護研究の基礎を理解し、自己の看護観を養う。
2. 看護管理の原則を理解し、看護サービスについて理解する。
3. 医療安全についての基礎知識を学び、安全を守るための看護の方法を理解する。
4. 災害における「人間」と「生活」を視点にした看護について理解する。
5. グローバルヘルスにおける看護師の役割を理解する。
6. チーム医療における看護師の役割を理解する。

### <構成>

教育内容	科 目	単 位	時間数
看護の統合と実践	看護研究の基礎	1	15
	看護マネジメント	1	30
	災害と看護	1	30
	看護の統合と実践	1	30
合 計		4	105

科目名	看護研究の基礎		担当教員	櫻田 章子		
専門分野	教育内容	看護の統合と実践	単位数 時間数	1単位 15時間	年次	3年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
病院などの医療施設の臨床や教育機関において研究活動に取り組んだ経験がある。さらに、研究成果を関係学会や老分とした経験がある。	経験を活かし、学生がこれまで経験した看護の中で究明すべき課題を見出し、課題の探求に取り組み、成果を報告するまでのプロセスを通して看護研究の基礎を学ぶための講義・演習を行う。

授業概要・授業のねらい

<p>1. 関心を持ったテーマについて、各自が取り組むケーススタディの計画を立案できる  2. ケーススタディ(事例検討・事例分析)に取り組み、深められた成果について論文としてまとめることができる  3. 主体的かつ計画的に、モラルを守り、倫理的な姿勢でケーススタディに取り組むことができる</p>
---

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	ケーススタディの意義と基礎	講義	
2	文献検索と文献検討(1)	講義/演習	
3	文献検索と文献検討(2)・計画書の書き方	講義/演習	
4	ケーススタディの進め方と本原稿・抄録の書き方	講義/演習	
5	ケーススタディの展開(1)	演習	
6	ケーススタディの展開(2)	演習	
7	ケーススタディの展開(3)	演習	
8	ケーススタディの展開(4)	演習	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用教科書・教材・参考書

<p>埼玉県看護学生研究発表会集録  ケーススタディ 抄録集 30期生・31期生  基礎看護学④看護研究 メディカ出版</p>
---

成績評価の方法

<p>課題への取り組み、および論文内容により総合的に評価する100点  ①文献検索課題10点、②計画書10点、③本原稿60点、④取り組み20点</p>
---

備考

<p>※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。  ケーススタディは担当教員の助言や指導を受けて学習・作成を進める</p>
--

科目名	看護マネジメント		担当教員	大塚 ひとみ 櫻田 章子		
専門分野	教育内容	看護の統合と実践	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	3年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
幅広い発達段階の対象への看護及び、健康保持増進期から終末期までの健康水準に応じた専門職としての経験を持ち、病棟における看護管理および医療安全推進者の実務経験を有する。	実務経験をもとに、看護マネジメントについて実践的に展開する。事例および実習での学びを振り返りながら現場で起こりうる看護について演習を行う。

授業概要・授業のねらい

<ol style="list-style-type: none"> <li>1.医療における安全対策の取組みを理解する。</li> <li>2.看護管理の原則を理解し、看護サービスについて理解する。</li> <li>3.チーム医療における看護師の役割を理解する。</li> </ol>
--

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	看護におけるマネジメント	講義/演習	
2	組織とマネジメント	講義/演習	
3	看護に関わる制度・法律・倫理	講義/演習	
4	医療安全と看護の理念	講義/演習	
5	事故発生のメカニズムとリスクマネジメント	講義/演習	
6	療養上の世話の事故防止	講義/演習	
7	診療の補助の事故防止 医療安全とコミュニケーション(1)	講義/演習	
8	医療安全とコミュニケーション(2)	講義/演習	
9	看護職のセルフマネジメント(1)	講義/演習	
10	看護職のセルフマネジメント(2)	講義/演習	
11	ケーススタディの抄録の書き方と進め方	講義/演習	
12	ケーススタディの抄録の作成	演習	
13	ケーススタディ発表会に向けた効果的なプレゼンテーション	講義/演習	
14	ケーススタディ発表会準備(発表原稿・パワーポイント作成)	演習	
15	ケーススタディ発表会	その他(発表会)	

使用教科書・教材・参考書

看護の統合と実践①看護管理 メディカ出版 看護の統合と実践②医療安全 メディカ出版 ・その他参考書:医学書院/看護管理、医療安全 他 ※授業資料として使用するため準備不要
---

成績評価の方法

70点(筆記試験30点、課題・成果物40点) ケーススタディ発表会への取り組み30点
---

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。 ※第1回目授業の際、紙ファイルを1冊準備して下さい(色:ピンク以外)。 ※学習状況に応じて課題提示の順を変更する場合があります。
---

科目名	災害と看護		担当教員	洪水 里子 他		
専門分野	教育内容	看護の統合と実践	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	3

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
震災時など被災病院や被災地の避難所、救護所での看護活動や生活を支援し、災害発生の救急期から回復期への看護実践を経験している。	実務経験をもとに、災害時の医療支援体制及び救護活動について授業する。被災地での支援活動の実際をふまえ、日ごろの防災・減災の備える活動につなげる。

授業概要・授業のねらい

1. 災害及び看護に対する関心を高める。
2. 災害サイクル、災害種別・災害者別による災害看護の特徴を理解する。
3. 災害時における「人間」と「生活」を視点にした看護について理解する。

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	海外での災害時の看護活動	講義	
2	災害に関する法制度/職種間の連携体制(CSCA)	講義	
3	避難所での看護活動	講義	
4	災害時要配慮者への看護	講義	
5	災害とこころのケア	講義	
6	災害時の医療活動	講義	
7	災害時の3T (1)BLS(AED含む)、START法・PAT法	講義/演習	
8	災害時の3T (2)トリアージ、搬送法	講義/演習	
9	災害超急性期における災害現場での看護と支援(1)	講義/演習	
10	災害超急性期における災害現場での看護と支援(2)	講義/演習	
11	災害急性期～慢性期における災害現場での看護と支援(1)	講義/演習	
12	災害急性期～慢性期における災害現場での看護と支援(2)	講義/演習	
13	災害準備期・静穏期における看護活動(1)	講義/演習	
14	災害準備期・静穏期における看護活動(2)	講義/演習	
15	災害と看護まとめ	講義/演習	

使用教科書・教材・参考書

看護の統合と実践③災害看護 メディカ出版

成績評価の方法

筆記試験100点

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

科目名	看護の統合と実践		担当教員	洪木 里子 他		
専門分野	教育内容	看護の統合と実践	単位数 時間数	1単位 30時間	年次	3

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
病棟勤務において、幅広い発達段階の対象への看護及び、健康保持増進から終末期までの健康水準に応じた専門職としての経験を持つ。	各職種の専門分野での仕事内容と臨床において看護師とのかかわりについて授業を展開する。

授業概要・授業のねらい

- 1.医療チームの一員としてのチームワークとコミュニケーションについて理解する。
- 2.複数の模擬患者への看護実践を行う。
- 3.グローバルヘルスにおける看護師の役割を理解する。
- 4.チーム医療における看護師の役割を理解する。

授業内容および方法

回	授業内容	授業方法	事前課題・課題
1	看護におけるチームワークとリーダーシップ様々な場における看護	講義	
2	複数患者を受け持つための情報共有	講義	
3	時間管理と多重課題	講義/演習	
4	優先順位の決定	講義/演習	
5	刻々と移り行く状況に応じた援助(1)	講義/演習	
6	刻々と移り行く状況に応じた援助(2)	講義/演習	
7	刻々と移り行く状況に応じた援助(3)	講義/演習	
8	安全なケアの遂行(1)	演習	
9	安全なケアの遂行(2)	講義	
10	グローバリゼーションと看護の国際協力	講義/演習	
11	日本に滞在する外国人の看護	講義/演習	
12	多職種とのチームワークと連携(1)	講義	
13	多職種とのチームワークと連携(2)	講義	
14	多職種とのチームワークと連携(3)	講義	
15	多職種とのチームワークと連携(4)	講義	

使用教科書・教材・参考書

看護学概論 他 メディカ出版

成績評価の方法

筆記試験84点 レポート16点

備考

※事前課題・課題の詳細は直前のシラバスで提示します。

# 臨地実習

## 23 単位 (975 時間)

### <ねらい>

- 生活者としての人間を包括的に理解する。
- 地域で生活する対象の多様なニーズに対応する地域包括ケアシステムにおける、きれ目のない看護を学ぶ。
- 地域保健活動の実際を理解し、地域における看護の役割と関連職種との連携について学ぶ。
- 知識・技術を看護実践の場面に適用し、看護の理論と実践を結びつけて理解する。
- さまざまな状況に応じた臨床判断を学ぶ。
- 各発達段階における多様な健康課題を有する対象に、科学的根拠に基づいた看護実践について学ぶ。
- 様々な状況にある対象の意思決定支援について学ぶ。
- 対象に共感しながら寄り添う姿勢を養う。
- さまざまな状況にある対象および取り巻く人々とのコミュニケーション能力を高める。
- 看護の専門職業人として、総合保健医療における看護の役割を認識し、その役割を果たす能力を養う。
- チーム医療および多職種と協働しながら、看護実践をマネジメントする。
- 看護への探究心を高め自らの看護観を明らかにする。

### <構成>

教育内容	科目	単位	時間数
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	30
	基礎看護学実習Ⅱ	2	60
	地域・在宅看護論実習	2	90
	成人看護学実習Ⅰ	2	90
	成人看護学実習Ⅱ	2	90
	成人看護学実習Ⅲ	3	135
	老年看護学実習Ⅰ	1	30
	老年看護学実習Ⅱ	2	90
	小児看護学実習	2	90
	母性看護学実習	2	90
	精神看護学実習	2	90
	統合実習	2/23	90
	合計		23

## 基礎看護学実習 I ( 1 単位 30 時間 )

### 1. 目的

対象の療養環境や思いを知り、既習の知識・技術・態度を基盤に看護実践に必要な基礎的能力と態度を養う。

### 2. 目標

- 1) 対象の療養環境や療養生活について考察することができる。
- 2) 対象の療養生活に対する思いを、コミュニケーションを通して理解することができる。
- 3) 対象の療養生活上のニーズを把握し、必要に応じた援助を実践できる。
- 4) 看護援助を振り返ることができる。
- 5) 看護者として倫理的行動がとれる。

### 3. 構成

基礎看護学実習 I	基礎看護学実習 I (臨地)	22 時間	1 単位 30 時間
	中間評価・リフレクション(学内)	8 時間	

## 基礎看護学実習 II ( 2 単位 60 時間 )

### 1. 目的

看護過程の構造を理解し、看護を実践するための基礎的方法及び倫理的態度を習得する。

### 2. 目標

- 1) 対象を統合的に理解することができる。
- 2) 対象の健康問題を導き出し、看護計画を立案することができる。
- 3) 看護計画に基づいた根拠のある日常生活援助を実施することができる。
- 4) 援助を振り返り、よりよい看護実践のための評価・修正を行うことができる。
- 5) 対象に関わる保健医療チームを知ることができる。
- 6) 看護者として倫理的行動をとることができる。

### 3. 構成

基礎看護学実習 II	基礎看護学実習 II (臨地)	48 時間	2 単位 60 時間
	中間評価・リフレクション(学内)	12 時間	

## 地域・在宅看護論実習（2単位 90時間）

### 1. 目的

地域で生活する人々を理解し、地域・在宅における看護の機能と役割について学ぶ。

### 2. 目標

- 1) 地域・在宅看護論の対象とその家族・介護者の生活を理解する。
- 2) 地域・在宅看護論の対象とその家族・介護者の価値観を尊重した看護を考える。
- 3) 地域共生社会について理解し、地域・在宅看護論における看護師の役割と関連職種や地域で生活する人々との連携・協働について学ぶ。

### 3. 構成

地域・在宅看護論実習	訪問看護ステーション	36 時間	2 単位 90 時間
	退院支援	18 時間	
	地域サービス	9 時間	
	校内学習	27 時間	

## 成人看護学実習 I（2単位 90時間）

### 1. 目的

発達段階の特徴をとらえ、回復期にある対象に応じた看護を実践できる。

### 2. 実習目標

- 1) 対象にとって必要な看護を導き出すことができる。
- 2) 回復過程に応じた看護が展開できる。
- 3) 医療、福祉チームにおける看護師の役割を理解できる。
- 4) 看護学生として責任ある行動をとることができる。

### 3. 構成

成人看護学実習 I	生活の再構築を支える看護	81 時間	2 単位 90 時間
	学内実習	9 時間	

## 成人看護学実習Ⅱ（ 2 単位 90 時間 ）

### 1. 目的

発達段階の特徴をとらえ、慢性期または終末期にある対象とその家族への看護を実践できる。

### 2. 実習目標

- 1) 対象の機能障害の原因と病態、内面・認識を把握し、対象に必要な看護を導き出すことができる。
- 2) 慢性期における対象と家族のセルフケア能力に応じた看護が展開できる。
- 3) 終末期における対象と家族の全人的苦痛に対する緩和ケアの実際を理解する。
- 4) 医療、福祉チームにおける看護師の役割を理解できる。
- 5) 看護学生として責任ある行動をとることができる。

### 3. 構成

成人看護学実習Ⅱ	セルフマネジメントを支える看護 生と死を支える看護	72 時間	2 単位 90 時間
	緩和病棟における看護(緩和病棟見学)	9 時間	
	学内実習	9 時間	

## 成人看護学実習Ⅲ（ 3 単位 135 時間 ）

### 1. 目的

急性期の特徴をふまえ、対象にとって必要な看護実践を通して急性期看護の役割を学ぶ。

### 2. 実習目標

- 1) 対象の苦痛・危機的状況における反応を系統的に観察し必要な看護を導き出すことができる。
- 2) 健康障害からの変化に応じた看護が展開できる。
- 3) 急性期におけるチーム医療の実際を理解する。
- 4) 医療、福祉チームにおける看護師の役割を理解できる。
- 5) 看護学生として責任ある行動をとることができる。

### 3. 構成

成人看護学実習Ⅲ	健康危機状態から回復を促す看護	90 時間	3 単位 135 時間
	手術室・救急外来・集中治療室における看護 (見学実習)	27 時間	
	学内実習	18 時間	

## 老年看護学実習Ⅰ（ 1 単位 30 時間 ）

### 1. 目的

地域に住む様々な高齢者を通して、その暮らしや高齢者の特徴を知ることができる。

### 2. 実習目標

- 1) 高齢者の身体的・心理的・社会的変化を知ることができる。
- 2) 多様性のある高齢者と、その人らしく生活するための様々な支援を知ることができる。
- 3) 高齢者を取り巻く社会について理解を深めることができる。
- 4) 高齢者の生活史に触れることで、高齢者を尊重した関わり方について考えることができる。
- 5) 看護学生として誠実な態度・言動ができる。

### 3. 構成

老年看護学実習Ⅰ	実習オリエンテーション(学内)	8 時間	1 単位 30 時間
	地域にある高齢者の様々な暮らし(臨地)	14 時間	
	まとめの会(学内)	8 時間	

## 老年看護学実習Ⅱ（ 2 単位 90 時間 ）

### 1. 目的

老年期にある対象の強みに着目し、健康障害の程度に応じた看護を実践することができる。

### 2. 実習目標

- 1) 健康障害のある対象の生活史を踏まえた全体像と強みを明らかにすることができる。
- 2) 対象の強みと退院後の生活を視野に入れた長期目標を設定することができる。
- 3) 対象の健康障害の程度に応じた安全で安楽な看護を実践することができる。
- 4) 対象を尊重した態度で関わるができる。
- 5) 実習目的、目標を理解し、自己の目標に向けて自ら取り組むことができる。
- 6) 看護学生として誠実な態度・言動ができる。

### 3. 構成

老年看護学実習Ⅱ	健康障害をもつ高齢者への看護(臨地)	78 時間	2 単位 90 時間
	カンファレンス・中間評価(学内)	12 時間	

## 小児看護学実習（2単位 90時間）

### 1. 目的

子どもの成長・発達や健康状態に応じた看護実践の基礎的能力を養う。

### 2. 目標

- 1) 子どもの成長・発達を理解できる。
- 2) 健康状態・検査・治療が子どもに及ぼす影響を説明できる。
- 3) 子どもの成長・発達や健康状態に合わせた看護が計画できる。
- 4) 子どもの状態に適した看護を実践し、評価ができる。
- 5) 子どもを支える保健医療福祉のシステムを理解できる。
- 6) 看護職者として責任ある態度を養う。

### 3. 構成

小児看護学実習	保育園実習	18時間	2単位 90時間
	外来実習	13.5時間	
	子どもに特有の疾患	13.5時間	
	病棟実習	45時間	

## 母性学実習（2単位 90時間）

### 1. 実習目的

ライフサイクル各期における母性の特徴の理解を深めるとともに、心理的・社会的変化を理解したうえで、母性看護の基本的な実践能力を養う。

### 2. 実習目標

- 1) 妊娠・分娩・産褥各期の経過を踏まえた、基本的な援助ができる。
- 2) 新生児の生理的特性を理解し、必要な援助ができる。
- 3) 対象の母性意識、母と子の絆、家族役割の変化について理解を深めることができる。
- 4) 周産期における看護職の役割について理解できる。
- 5) 母子とその家族への援助、周産期医療チームとの関わりを通して自己の母性看護観を深めることができる。
- 6) 女性の健康増進にむけた啓発活動を理解し参画できる。

### 3. 構成

母性看護学実習	妊婦の看護	9時間	2単位 90時間
	産婦の看護	9時間	
	新生児の看護	9時間	
	褥婦の看護	45時間	
	校内実習	9時間	
	女性の健康増進にむけた援助	9時間	

## 精神看護学実習（ 2 単位 90 時間 ）

### 1. 目的

精神障害のある対象を理解し、その人らしく地域で生活するために必要な看護を実践できる基礎的能力を養う。

### 2. 目標

- 1) 対象の治療的環境における役割を理解できる。
- 2) 精神障害のある対象を理解し、対象に応じた必要な援助を実践できる。
- 3) 対象とのかかわりを通して、自己の内面の変化に気づき自己洞察できる。
- 4) 精神保健・医療・福祉システムの現状を理解し、看護の役割について考察できる。

### 3. 構成

精神看護学実習	精神科病棟に入院している対象の看護	56.8 時間	2 単位 90 時間
	地域で生活している精神に障害のある対象の看護	33.2 時間	

## 統合実習（ 2 単位 90 時間 ）

### 1. 目的

チームの一員として協働できる基本的能力及びさまざまな健康レベル対象への看護実践能力を養う。また、多職種との協働について学び、卒業後の臨床実践のイメージを図り 専門職業人としての姿勢について考察し自己課題を明らかにする。

### 2. 目標

- 1) 複数の対象への看護介入の視点を明らかにし看護実践する。
- 2) 患者の状況に応じて安全な看護を実践する。
- 3) チームの一員であることを自覚し、保健医療福祉チームメンバーの連携と看護の役割を理解する。
- 4) 専門職業人となる自覚をもち、看護の価値を探求する。

### 3. 構成

統合実習	安全管理・看護管理実習 看護チーム連携・保健福祉医療チーム実習	2 単位 90 時間
------	------------------------------------	---------------

## 指定規則外科目及び時間数

	科目	時間数	時 期	ね ら い
式典	1 入学式	3	1年次 前期	看護学生としての自覚を持ち、看護を学ぶ意志を固める。
	2 卒業式	6	3年次 後期	3年間の看護教育課程を終了したことの証を受け、専門職業人としての使命と責任を認識する。
	3 戴帽式	3	1年次 後期	看護学生として、また、看護に携わる者としての誇りと自覚を再認識する。
	4 戴帽式への準備	9		
その他	1 入学ガイダンス	16	1年次 前期	学生生活の概要を知り、学習及び活動に役立てる。
	2 学校祭（紅葉祭）	39	各年次 後期	自主性、協調性、創造性を高めるとともに、学生間および学生－教員間の交流を深める。
	3 健康運動実践	3	2年次	スポーツを通して、各学年間・各クラス間の交流を図る。野外での活動を通して、心身ともにリフレッシュする。
	4 看護の探求	16	各年次	研究活動への認識を深める。発表会において意見交換をすることにより学生交流および自己の啓発を図る。
	5 臨床看護技術	17	各年次	臨床に近い状況設定の中での演習を通して看護技術を実施可能なレベルにまで習得する。
	6 国家試験対策	80	各年次	看護師の国家資格を得るために必要な心構えを知り、既習の知識を再確認して資格取得試験に備える。
	7 奉仕活動	3	1.2年 次	校内・外活動に参加し、自ら行動し共に支えあう意識を高める。
	8 消防訓練	3	各年次	防災時の対処法を学び、安全対策について関心を深める。
	9 健康診断	6	各年次 前期	自己の健康状態を知り、健康管理に役立てる。
	10 H.R	52	各年次 通年	話し合いや活動を通して、有意義な学生生活を送る。
	11 実習オリエンテーション	21	1.2年 次	各看護学の実習目的・内容・方法への理解を深める。
	12 ハワイ研修準備	3	2年次	海外研修旅行の目的・内容・方法について理解し、準備に役立てる。
	13 解剖見学	4	2年次	生命と死、献体の意義などを考え、医学領域に携わる者としての意識を深める。